

**平成 28 年度
奄美群島アイランドホッピング検討事業
報告書**

**平成 29 年 3 月
鹿児島県大島支庁**

目 次

1. はじめに

1-1 本事業の目的と概要.....	1
--------------------	---

2. 奄美群島のアイランドホッピングの現状

2-1 過去の調査結果より.....	2
2-2 奄美群島のアイランドホッピングの現状と課題.....	3

3. 奄美群島のアイランドホッピング実証事業

3-1 モニターツアーの目的と概要.....	12
3-2 モニターツアーのアンケート調査結果.....	16
3-3 モニターツアーから把握された課題と魅力.....	33

4. 航空機利用者のニーズ把握アンケート調査

4-1 航空機利用者アンケート調査の目的と概要.....	36
4-2 航空機利用者アンケート調査結果より.....	36

5. 奄美群島アイランドホッピング検討会

5-1 検討会の実施目的と開催概要.....	43
5-2 検討会から抽出された課題.....	44

6. 調査を終えて

6-1 奄美群島のアイランドホッピングの課題と今後へ向けて.....	52
------------------------------------	----

参考資料

1. 旅行商品調査結果
2. モニターツアーまちあるき結果
3. 検討会次第および委員名簿

1. はじめに

1-1 本事業の目的と概要

近年、奄美群島では、官民多様な主体による自然保護や観光振興を目的とする様々な取り組みが進められており、各方面からの注目度も高まりつつある。

平成25年12月の「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産候補地科学委員会」では、奄美大島および徳之島を世界自然遺産登録候補地に選定し、平成30年の遺産登録を目指しており、平成29年3月には、国内34番目の国立公園として、奄美群島国立公園が指定されるなど自然保護の大きな動きが見られる。

一方、観光振興では、平成26年7月よりLCC航空会社のバニラエアが奄美大島～成田空港を就航したことに加え、奄美群島交流需要喚起対策特別事業等により、奄美大島の来島者はここ数年、増加傾向にある。さらに、奄美大島～関西空港間のバニラエアの新規路線が平成29年3月に就航し、JACも平成30年度に新規路線として「奄美群島アイランドホッピングルート」の開設を予定している。

しかしながら、奄美大島以外の主要な島への来島者の増加について、これらの取り組みの顕著な効果を感じられていないことから、奄美大島の来島者を奄美群島内の他の島にも波及させることを目的に、群島内の島々を訪れ、観光を楽しむ奄美群島のアイランドホッピングについて検討を行うものとする。

本事業の検討作業では、現状の把握や課題の抽出をはじめ、奄美群島アイランドホッピングの実施へ向けた効果的な方策、求められる情報発信等について、観光や交通関連の事業者および行政機関が議論を交えながら、交流人口の拡大や地域振興を目指し、意識共有を進める。

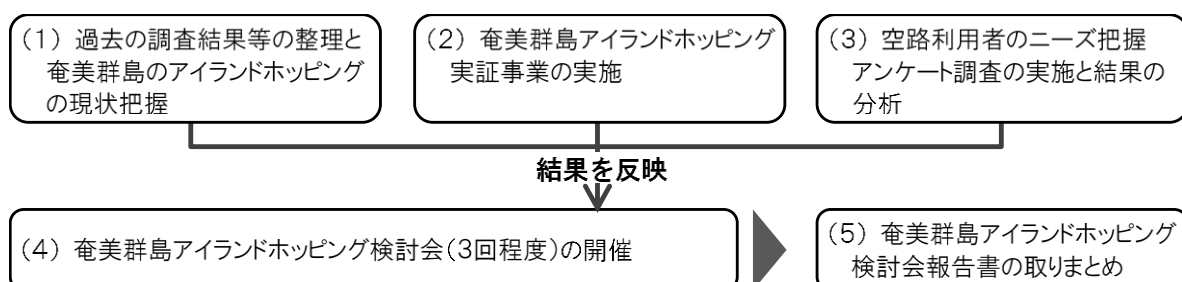
また、群島内の主要な航空、海運および奄美大島の運輸の事業者間の相互理解と船舶による観光推進の連携体制づくりへ向け、基礎的な意見交換の場を設けるとともに、生活航路としての認識が強い船舶を利用した観光の快適性や利便性向上のための課題や情報の共有を図る。

あわせて、奄美群島における船舶や島内の路線バス等を使った観光推進への課題と観光利用の限界を探り、生活路線の観光利用で求められる仕組みと方策、旅行商品造成の要点についても検討を行う。

本事業の検討作業として、以下の1～4の項目を実施する。

1. 過去の調査結果等の整理と奄美群島のアイランドホッピングの現状把握
2. 奄美群島アイランドホッピング実証事業の実施
3. 航空機利用者のニーズ把握アンケート調査の実施と結果の分析
4. 奄美群島アイランドホッピング検討会の開催

本事業のフローを以下に示す。



2. 奄美群島のアイランドホッピングの現状

2-1 過去の調査結果より

奄美群島のアイランドホッピングについて、公開されている過去5年程度の観光振興に関連する調査結果を見ていくと、「アイランドホッピング」という文言が記載されているものは極めて少ないものの、その可能性を指摘している調査が複数存在する。

「沖縄・奄美群島の観光資源を連携させた新たな旅行需要創出調査」（内閣府沖縄総合事務局運輸部 2012年3月）では、沖縄県への東京、関西方面からの入域観光客に対し、石垣島や宮古島のように比較的気軽に行ける離島として奄美群島の着地型旅行商品の販売が提示され、奄美大島および奄美群島に立ち寄り、島づたいに南下しながら沖縄に至る考え方が「アイランドホッピングによる周遊ルートの構築」として例示されている。

また、「平成27年度 奄美群島交流需要喚起対策特別事業効果検証調査」（一般財団法人運輸総合研究所 平成28年9月）では、奄美群島のアイランドホッピングという記載はないものの、奄美群島の来訪者の観光行動で、「飛行機で奄美群島を訪れる人の約3割が飛行機もしくは船を利用して複数の島に行っている」ことが示されており、奄美群島のアイランドホッピングが実際の観光行動となっていることが分かる。この調査では「今後の検討課題」も示され、それらは、本事業で検討作業を進める際にも留意すべきものである。4項目の検討課題と本事業に関連性の高い具体項目について以下に示す。

課題1. 航空機と船舶の運賃割引の継続実施及び期間と内容の拡大

課題2. 奄美群島間及び各島内の交通の利便性向上

- ・出発時刻、乗り継ぎの改善
- ・レンタカー、バス、タクシー等の充実
- ・空港や港における分かりやすい案内や利用しやすい設備の充実

課題3. 観光シーンの充実と適切なプロモーションの展開

- ・自然以外の奄美群島の新たな観光シーンを創出
- ・(プロモーションについて)ターゲット、内容、発信媒体を適切に展開

課題4. 周辺地域との連携の強化と受け入れ体制の充実

- ・奄美群島と沖縄を周遊する旅行商品やプロモーション活動はない
- ・(世界自然遺産登録に向けて)自治体や旅行業界、交通事業者による協議や連携体制の構築・強化が必要
- ・周辺地域とも連携を強化していくことにより、さらなる交流人口の拡大に繋がると考えられる

2-2 奄美群島のアイランドホッピングの現状と課題

奄美群島のアイランドホッピングの現状と課題を考える場合、既存の旅行商品の販売状況を把握する必要がある。このため、大手旅行代理店が販売している奄美群島の旅行商品について、複数の島を巡る商品の旅程をはじめとする旅行内容、旅行日数、島間移動で使用する交通機関等を中心に、奄美群島のアイランドホッピングの現状確認を行った。

また、課題については、実証事業等の際、鹿児島～奄美群島間を航行するフェリーに乗船し、利用者の視点から課題抽出を試みた。

(1) 旅行商品に見る奄美群島のアイランドホッピング

奄美群島では定期便として、JAL・JAC、バニラエアの航空2社の航空機および、マルエーフェリー、マリックスライン、奄美海運の海運3社の船舶が就航し、それらを使い、航空機と船舶を組み合わせた様々な旅行商品が販売されている。また、平成28年6～9月には、鉄道と船舶を組み合わせた旅行商品も販売され、九州の主要駅からの鉄道と船舶の組み合わせとなっていた。

調査対象とした大手旅行会社の旅行商品は、宿と航空機を組み合わせたフリープランが殆どであったが、クラブツーリズム株式会社の「世界自然遺産候補地 奄美群島4島めぐり5日間」は、奄美大島、徳之島、沖永良部島、与論島を航空機と船舶で移動し、各島の観光施設や体験を楽しむ構成となっており、旅程に2時間～2時間半程度、生活航路のフェリーによる移動が組み込まれている。「個人では行きにくい[喜界島]奄美群島5島めぐり4日間」はチャーター船で、加計呂麻島～与路島～請島間を1時間以内で移動するものであった。

株式会社ジャルパックは、「奄美群島の島々を巡る」6日間の旅行商品を造成しており、与論島～沖永良部島～徳之島間は、2時間～2時間半程度の生活航路のフェリー移動、他の行程は航空機が使われている。「JMBプレミアムツアーセレクション スローな時間と海の絶景 奄美大島と与論島に行く4日間」は、奄美大島～加計呂麻島間が生活航路のフェリー、その他は航空機を組み合わせた移動であった。「小型プロペラ機で奄美群島のアイランドホッピング2日間 16フライト」は、特徴的な商品であり、調査対象の中で唯一「奄美群島のアイランドホッピング」という文言が使われていた。この調査結果より、上記2社の旅行商品は、船舶利用について興味深い特徴が見られた。

旅行商品における船舶の使い方は、乗船時間の長さによって楽しみ方も異なることが推察される。1時間以内の乗船例として、奄美大島～加計呂麻島～与路島～請島間のチャーター船や海上タクシー、水中観光船等は、「乗船体験自体を楽しむ」観光魅力の性質が強い。

一方、乗船時間が2時間半前後の生活航路では、テーマ性が明確な商品（クラブツーリズム）と旅の自由度が高く滞在日数の長い商品（ジャルパック）を挙げることができ、「船内である程度の滞在時間を過ごす」移動手段と位置付けられる。さらに、鉄道と船舶を組み合わせた商品（JR九州旅行）では、「船内泊」という宿泊機能が付加されている。

旅行商品における主要な移動手段と乗船時間の長短、船舶の担う役割を整理した場合、次頁のような分類ができる。

主要な移動手段	乗船時間の長短	船舶の担う役割
航空機	・短時間:1時間以内	観光魅力
航空機・船舶	・長時間:2～3時間程度	移動手段
鉄道・船舶	・船内泊:10時間以上	移動手段・宿泊機能

旅行商品の主な集客圏およびアイランドホッピングの周遊エリアは以下のように整理できる。

交通手段の組み合わせ	考えられる集客圏	考えられる周遊エリア
航空機と短時間の船舶利用	大都市圏(関東、関西)	奄美群島全域～沖縄
航空機と長時間の船舶利用	大都市圏(関東、関西)、沖縄	鹿児島～奄美群島全域～沖縄
鉄道と船内泊付きの船舶利用	九州エリア全域	鹿児島～奄美群島北部エリア

(2) 奄美群島住民の生活航路としての位置づけ

奄美群島に就航、寄港する航空機と船舶は、居住者の生活路線としての役割も担っている。交通手段別に見ると、ジェット機は首都圏等の遠方の大都市へ向かう際の主要な交通手段、プロペラ機は鹿児島や沖縄等の近隣都市部への交通手段として利用されている。船舶は、群島内の他の島への移動や奄美大島～鹿児島、与論島～沖縄といった近隣の都市部への移動でも広く利用されており、群島内の居住者にとって船舶は、「生活のための身近な移動手段」という認識が根強い。

群島内の船舶利用者を俯瞰した場合、中高生から大人までスポーツ等の試合で島外への団体移動、連休や夏休み等の季節に子連れ家族の移動、工事等の業務で群島内の各島を巡回するビジネス利用等がみられるが、これらの客層は、観光目的の利用ではないため、船内の過ごし方も一般観光客とは異なっていることに留意が必要である。

(3) 旅行者目線で考えるアイランドホッピングの課題

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島の世界自然遺産登録は、奄美群島の認知度や注目度の向上をはじめ、観光振興においても大きな契機となる。そのため、航空機と船舶を組み合わせたアイランドホッピングについても旅行者の視点をもって課題抽出をすることが必要となる。

本事業では、実証実験等の機会を利用し、乗船まで～乗船中～下船後といった利用の順序に沿って、船舶を使った観光を推進する際の課題抽出を行った。

①乗船までの課題(鹿児島)

【インターネット関連】

- ・インターネットでの乗船予約は手軽になったが、予約時にホテルでの仮眠、入浴、朝食プランの予約等もできると利便性が向上する。
- ・鹿児島新港、名瀬港、那覇港ともターミナルの地図はあるが、施設案内のサイトがない。
(那覇の泊港「とまりん」や五島の福江港は独自のサイトや施設案内のページがある)

【ターミナル/鹿児島市内】

- ・鹿児島新港のターミナルの建物は綺麗だが、売店や商品の魅力に欠け、飲食が楽しめない。ターミ

ナルで過ごす時間を有効に楽しませ、観光客が買いたくなる商品やサービスの検討が必要。

- ・ターミナル施設は、上下船の利用が朝夕に限られており、日中は利用されていない。施設本来の用途とは異なるが、施設内の物販や飲食の質的向上には乗下船目的以外の利用促進も必要。
- ・交通拠点なので、Wi-Fi は整備する必要がある。

【案内表示/鹿児島市内】

- ・鹿児島中央駅の改札を出た際、フェリー埠頭の案内表示や埠頭へ行くバスの案内が殆ど見られず、あっても分かりづらい。
- ・喜界島経由のフェリーは北埠頭、奄美大島へ直行するフェリーは新港埠頭から出るが、2つの埠頭は場所が離れており、フェリー利用に不慣れな観光客は埠頭を間違える可能性が高い。県内の各島へ行くフェリーの乗船場所が一覧でき、分かりやすい埠頭への案内表示は非常に重要。

【バス停、バス路線/鹿児島市内】

- ・鹿児島中央駅前の北埠頭や新港埠頭行きバス乗り場と行き先の表記が分かりづらく、新港埠頭行きのバスは、1日1便であることの周知も必要。
- ・鹿児島北埠頭へのバス路線は、「水族館前」が最寄りのバス停とされ、交通拠点である「北埠頭」までのバスのアクセスがない。大きな荷物を持った旅行者には最寄りバス停からの移動が不便。

②乗船中の課題(船内)

【飲食物販】

- ・食堂の営業時間が短い、営業後にホールとして利用できることが周知されていない。
- ・旅先の食の楽しみになる要素が欲しい。カレーやラーメンといった簡単な既存メニューも原材料や名称、盛り付けと味を工夫するなど、鹿児島からの航路の名物料理ができると観光魅力につながる。
- ・船内の売店の商品は、タオルやボディソープ等の日用品が多く、旅先で買いたくなる商品が乏しい。奄美群島らしいものや各島の特産品等、乗船中の楽しみにつながる要素や商品があると良い。
- ・売店も一定の時間で閉まってしまうが、売店の営業がない時間に、売店を使い外部人材による各島の特産品(農林水産物や加工品、惣菜や菓子類、島内作家の小物等)の販売を行う船内の小規模直売所のような機能があると奄美群島らしさが伝わる。

【客室や船内】

- ・毛布や枕、マットレスのカバーが汚れており快適性が損なわれている。(他地域の船舶では、毛布は1回¥100程度でレンタルでき、クリーニングされたきれいなものを借りることができる)
- ・女性専用客室はあるが、満席等の混雑時は男女共用利用になるため、客室内でも男女のエリアを分けることができると良い。
- ・消灯時間も早く、眠る事以外で、船内で時間を過ごす楽しみ方や要素を検討することが必要。
- ・荷物が重い場合、船内にエレベーターが必要であり、エレベーターの案内表記が分かりづらい。

【船内での観光情報の提供】

- ・奄美群島内の観光情報やシマ博等の着地型の体験プログラムの申し込み、下船後のホテルの仮眠や

入浴、朝食等、観光に関わる情報発信を強化し、希望する乗船客がスマホ等を使い、船内から予約できる仕組みがあると良い。

- ・個人旅行者が多い季節のみ、島コーディネーター等が乗船し、各島の着地型観光や体験プログラムの案内、各島の飲食店(奄美大島以外の島は飲食店のある場所が分かりづらい)情報やマップの配布といった下船後の観光行動につながる案内があると、各島の楽しみ方が明確になる。
- ・早朝に入港する名瀬で下船後の楽しみ方(以前、早朝に食事ができる店舗や散歩コース等を記載したマップがあった)を紹介するチラシやマップ等の積極的な配布が必要。
- ・観光情報の発信では、フリーペーパー(夢島)が置かれているが、船内は多くの案内表示(船の説明、色々なポスター、注意書き等)があるため、情報が埋もれてしまう。観光関連の情報発信媒体(チラシ、パンフ、マップ等)を集約し、観光情報コーナーを設けるなど、乗船客の利用頻度が高い場所(目につきやすい場所)にまとめて置くことで、観光情報の発信機能が強化できる。
- ・船内でWi-Fiが使えると、長時間の移動時にも各自がPCやタブレットで楽しむことができる。

③下船後の課題(名瀬)

【ターミナル/名瀬】

- ・ホテルの仮眠や入浴等のプランを知らない場合、最終手段として名瀬港のターミナルで快適に時間を過ごせるような空間が必要。現状は、薄暗い施設内にベンチが置かれ、待ち時間を過ごす飲食物販の魅力も乏しい。畳が敷かれた台は、畳が汚く、周囲に囲いがいないため、仮眠している姿が目にとさらされやすく利用しづらい。
- ・施設内の飲食店は、営業時刻も乗下船間近な時間のため、待ち時間を過ごす利用者にとって、利用しづらく、観光地としての魅力が感じられない。
- ・コインロッカーはあるが、両替機が設置されておらず利便性やサービスが劣る。
- ・施設の外観が周辺の倉庫と同化しており、他地域の客船ターミナルのような交通拠点らしさや観光魅力としての雰囲気を感じられない。
- ・交通拠点なので、Wi-Fiは整備する必要がある。

【案内表示/名瀬】

- ・季節によって薄暗い時刻に入港する場合もあり、ターミナル内にも分かりやすい案内表示が必要。
- ・名瀬港のターミナルから中心市街地を網羅した案内表示や周辺のホテルや飲食店を記載した分かりやすいマップや案内板の整備が必要。配布用の紙媒体のマップと連動した案内表示があると良い。

【バス路線/名瀬】

- ・早朝の名瀬港発古仁屋行が名瀬の市街地経由であることが分からないため、名瀬の街なかに行きたい観光客の利用につながりづらい。
- ・奄美空港～名瀬港間のダイレクトアクセスのバス路線がない。
- ・名瀬の市街地で名瀬港行きのバス停が分かりづらく「ウエストコート前」のバス停が空港線と離れているため混乱する。

④ 結節点としての情報発信機能や連携の強化

【鹿児島】

- ・新港埠頭と北埠頭のターミナルは、施設が新しく綺麗だが、交通拠点の活気や観光魅力が乏しい。鹿児島市内の都市計画的な課題も含まれるものと思われるが、鹿児島中央駅から客船ターミナルを経て、奄美群島～沖縄につながることを意識させる結節点としての役割とともに、情報発信や賑わいを創出する民間との連携ができると、島々への船旅が身近になる。

【名瀬】

- ・ターミナル施設の古さと内部の薄暗さは、奄美大島の海の玄関としてのイメージを損ないかねず、奄美大島および奄美群島～沖縄へ続く交通拠点としての魅力や情報発信機能も乏しい。

【船舶】

- ・鹿児島～沖縄を結ぶ交通機関として、航行している島々の観光を中心とする情報発信や行政機関、民間事業者との連携を強化することで、個別に発信されている情報の集約が可能になり、アイランドホッピングの旅の魅力向上につながる。

⑤ 観光魅力としてのアイランドホッピングの再構築

- ・「島旅」の人气が高まり、島旅を取り上げる雑誌や旅行ガイドも多く刊行されているが、船舶、航空機、鉄道等、島旅の移動手段の「乗り物」としての魅力は見落とされている。「奄美群島のアイランドホッピング」では、乗り物自体も旅の魅力となるような売り方や観光戦略が必要となる。
- ・船舶、航空機、鉄道を組み合わせた「奄美群島のアイランドホッピング」という鹿児島～沖縄間の各島を結ぶ旅行のあり方をこれまでとは異なる切り口や視点で再考し、新しい旅のスタイルや魅力を作っていくことが必要。
- ・「奄美群島のアイランドホッピング」を構成する船舶、航空機、鉄道といった交通手段の中でも、特に利用時間が長時間に及ぶ宿泊を伴う船舶移動については、旅のワクワク感や非日常性を強調する船旅及び船中泊のイメージ作りやPRも重要。



■ 鹿児島市内に掲示されている「さんふらわあ」のPRの例

前述の「平成27年度 奄美群島交流需要喚起対策特別事業効果検証調査」結果からも、異なる交通手段を組み合わせ、観光事業者や行政と連携し、奄美群島のアイランドホッピングとして、観光振興を推進する環境整備が必要な状況であることが分かる。

このため、奄美群島において、航空機、船舶および鉄道を組み合わせたアイランドホッピングは、魅力付けや提供するサービス、島嶼らしさを感じさせる旅行スタイルの提案方法等の検討と実現へ向けた取り組みが求められる。

【他地域のターミナル例～福江島の福江港ターミナル(長崎県五島市)】

長崎県五島市福江島の福江港ターミナルは、長崎～福江島間のフェリーや高速船、福岡～福江島を結ぶフェリー、五島列島の他の島へ渡る船舶のターミナルとして機能しており、地域の居住者の生活路線と島々を訪れる観光客いずれの利用にも対応する機能が整備されている。ターミナルには、チケット販売、観光案内、飲食物販、休憩等の機能が効率よくまとめられている。



■施設外観



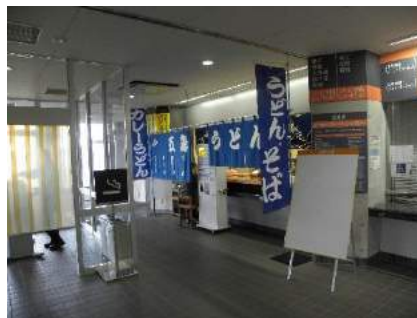
■チケット売り場



■ホール全景



■土産物店



■名物五島うどんの飲食店



■特産品等の紹介スペース

・具体的な施設機能として、チケットブースの他に、名物の五島うどんを出す飲食店、土産物を販売する売店、観光協会の事務所等も入っており、小規模な施設ながら港のターミナル機能が集約され、買い物や飲食を楽しみながら乗船までの待ち時間を過ごすことができる。

【他航路のフェリー船内例～福岡～福江島航路の太古(野母商船定期フェリー)】

長崎県の福江島と福岡港を結ぶフェリー「太古」の船内は、展望ラウンジやリラックスルーム等が整備され、島内住民、観光客を問わない船旅の快適性を高めるいくつかの工夫がみられる。

船内施設の分かりやすい表示は、初めて乗船する利用者の利便性に重要な要素であり、船内の張り紙類やパンフレット類の設置場所の整理整頓や毛布をはじめとする備品類の清潔さの確保は、観光目的の利用者にとって、船旅の快適性や船の印象を大きく左右する要点と位置づけられる。



■太古の外観



■貸毛布の表示と毛布のロッカー



■キッズルームと子供向け飲料自販機

- ・キッズルームや授乳室は、生活路線、観光利用いずれの子連れ客にも配慮した施設構成といえる。
- ・船内の毛布は有料の貸し出し制（1枚¥100）になっており、コインロッカーに料金を投入する方式で清潔な毛布を借りることができる。



■女性用スタンダード(女性専用客室スペース)



■スタンダード(一般客室)

- ・客室スペースは、スイートやグリーン寝台等の定席・指定客室スペースとスタンダード（一般客室）を含むパブリックスペースにフロア区分され、スタンダードは女性専用と一般で区分されている。



■売店



■売店呼び出し



■食べ物用自販機



- ・船内売店は基本的に無人だが、購入したい場合は、ベルで係員を呼び出す仕組みとなっているほか、調理室は設置せず、食べ物は自販機で購入する等、船内の人員配置の合理化が進んでいる。
- ・売店の品ぞろえは、地域の特産品や菓子等の土産物類、旅行ガイドやクリアフォルダー等のオリジナルグッズ類を中心にショーケース内に陳列されている。洗面用具や髭剃り、酔い止め薬等の日用品類は、カウンターで販売されている。



■船内に設置されている書籍



■公的な情報



■観光情報と教会の見学方法



- ・長時間の移動時には欠かせない書籍や雑誌類、公報紙や観光パンフレット等は、設置場所を分けて整理されている。観光情報は、ポスターの掲示スペースが確保され、世界遺産登録を目指している教会群の見学方法等も分かりやすく示されている。
- ・太古は、船名の由来（中国は・北宋時代の詩人『唐庚』の漢詩の一節「静如太古(しづかなることたいこのごとし)」を引用）や船の快適性の追求というコンセプトが船内各所に反映されている。

【他地域の情報発信例～神津島の観光情報発信例(東京都神津島村)】

多くの島嶼部を擁する東京都においても、観光情報の発信に工夫がみられる。神津島は調布飛行場発着のプロペラ機か竹芝桟橋発着の船舶の2系統のアクセス方法があるが、輸送量の大きい船舶が主要な経路である。観光案内所を兼ねた観光協会事務所では、交通情報(島内、島外)や観光情報(手荷物預かり、前売り温泉入浴券等)の掲示とともに、船舶の料金や時間を集約したパンフレットも配布されている。



■ 島間移動のポスター ■ 島内交通、サービス案内 ■ 船舶移動の情報を集約したパンフレット

- ・ 神津島周辺の伊豆諸島は、島間の距離が奄美群島よりも短く、島々を高速船とフェリーで移動することが可能であるため、移動手段(高速船、フェリー)と移動時間および料金を示すことで島間移動が容易であることを周知するポスターが掲示されている。
- ・ 観光協会の窓口近くには、島内のバスやタクシー、レンタルバーベキュー用具、手荷物預かり等の観光情報が統一されたフォーマットで1カ所に掲示され、観光客が求める情報が集約されている。
- ・ 多くの観光客にとって、乗り慣れない船舶の時刻や料金は、鉄道やバス等に比べ分かりづらいため、見やすい大きさのパンフレットによる情報伝達や利用促進は重要となる。伊豆諸島を航行する船舶においては、時刻と料金、利用上の注意等、必要な情報がまとめられたパンフレットにより利用者の利便性が高まっている。

(4) 旅行会社の感じている課題

今後、奄美群島の航空機と船舶を組み合わせた旅行商品の企画、販売へつなげるために、現在、航空機と船舶を組み合わせた旅行商品を造成、販売している旅行代理店を対象に、課題抽出を目的とするヒアリング調査を実施した。

① クラブツーリズム株式会社

「世界自然遺産候補地 奄美群島4島めぐり5日間」は、船舶と航空機を使いながら奄美群島内を移動している。

ツアーに参加しているお客様は、旅慣れた人が多く、船や船内の細かなことは、「そういうもの」と認識しているようでクレームは特に出ていないが、今後、世界自然遺産に登録された場合、奄美

大島と徳之島等の2島巡りの商品造成も考えられ、船旅に慣れていないお客様の利用が増加するとクレームが出る可能性がある。

課題の1つは、船舶の欠航や抜港が多いこと。欠航や抜港が発生した場合、移動手段を船舶から航空機に変更することは、お客様の金銭的な負担が大きくなるため行っていない。欠航や抜港になった島で足止めにして次の島を抜かしてツアーを続行している。天候が理由の旅程変更は、約款でも示されている。

欠航や抜港といったイレギュラーな問題が発生した際の食事場所の確保が困難なことも課題に感じており、客船ターミナル等の港の施設で食べ物を調達することができると良い。

奄美群島巡りのツアーは、昔からやっているものなので、これまでのルートを踏襲して催行している。ルートの組み換えとそれに伴う船舶～島内の移動時間を調べなおすことは手間がかかるため、島の地図に島内の移動ルートと必要な移動時間が出ている資料があると旅程が組みやすくなる。

②株式会社ジャルパック

「奄美群島の島々を巡る(6日間の旅行商品)」で、船舶と航空機を使いながら奄美群島内を移動する商品だが、6日間という時間的拘束が大きいため、今後、日程の短いルート等も検討したいが、その際、喜界航路の時刻やルートをもっと周知してもらえると旅程が検討できて良いと感じている。

また、「JMBプレミアムツアーセレクション スローな時間と海の絶景 奄美大島と与論島に行く4日間」は、奄美大島～加計呂麻島間で生活航路のフェリーを利用するが、フェリーの観光利用枠の確保の不安があり、連休などの利用率が上がる日程は避けて旅程を設定することになる。観光利用の枠を確保し、1か月前から座席の確保ができると良い。

加計呂麻島は、島内のタクシー事業者がいないため、島内移動の交通手段の確保が難しく困る。

旅行商品の利用客から船舶へのクレームはあまりないが、今後の世界自然遺産登録を考えると、奄美群島～屋久島間の航路がつながると世界遺産巡りができて良い。

移動手段以外では、郷土料理を食べることができ、ホテルまで徒歩で帰ることが可能な店をもっと知りたいと思っている。

3. 奄美群島のアイランドホッピング実証事業

3-1 モニターツアーの目的と概要

実証事業として、奄美群島に就航している航空機、船舶を組み合わせ、奄美大島と群島内の1島を訪れるモニターツアーを実施した。モニターツアーの実施目的は、以下のとおりである。

1. 奄美大島を起点に航空機と船舶を組み合わせる場合の要点や課題の把握
2. 今後の旅行商品造成へつなげるためのモデルルートの検証
3. 群島内の着地型体験プログラムを旅行商品として販売する際の課題の把握

モニターツアーは、奄美大島と他の1島を巡る2種類の旅程を考案し、航空機と生活航路の船舶を使ったアイランドホッピングの魅力を確認するとともに、荒天時の代替プランの検討も行った。

ツアー参加者は1コース10名程度とし、着地型観光に造詣のある有識者を各コース1名配置、ツアー参加者を対象に、ツアー内容に関するアンケート調査を実施し、観光客の視点による課題と魅力を抽出し、今後の奄美群島のアイランドホッピングの推進に有効な知見の抽出を試みた。

(1) 奄美群島アイランドホッピングモニターツアーの実施

モニターツアーでは、奄美大島を起点に、隣り合う喜界島と徳之島をそれぞれ訪れる旅程を検討した。旅程およびコンテンツは、アイランドホッピングとして移動に時間のかかる船舶を使うため、時間に追われ、過密な旅程になりやすい通常の大型団体旅行を対象とするのではなく、少人数で地域の資源を深く楽しむSIT^{*}(Special Interest Tour)の客層を想定し、SITに知見のある東京都内の旅行代理店を交え、旅程の検討とモニターツアーの催行を実施した。

※SIT:特別な目的や明確なテーマを持った観光旅行の1分野。

①奄美大島と喜界島のモニターツアー

『奄美群島アイランドホッピング モニターツアーその1 喜界島へ行こう!』

奄美大島北部で集落行事「八月踊り」に参加し、喜界島で遺跡と集落を楽しむ旅

●日程: 2016年10月14日(金)～16日(日)の2泊3日

●旅行代金: ¥25,800円(奄美大島集合解散)

奄美大島と喜界島のモニターツアー旅程	
【オプション】 10月13日(木)	鹿児島中央集合 16:30→(タクシー利用)→鹿児島北埠頭着(16:50) →鹿児島北埠頭発(17:30 フェリーきかい)→名瀬港着(翌日 07:00)→徒歩移動 →入浴と朝食(07:00～09:00)→金作原エコツアー(09:30～11:45) →昼食(12:15～13:30)→路線バス移動(13:50～14:47)→奄美空港で合流
10月14日(金)	羽田空港発(12:30 JAL659 便)→奄美空港着(14:45)→バス移動 →奄美パーク・田中一村記念美術館見学(15:15～17:20) →宿泊施設チェックイン(17:30)→自由行動・軽食(17:30～19:30)

	→里集落の種おろし～八月踊り～(19:30～22:00 頃)→宿泊施設戻り(22:30)
10月15日(土)	宿泊施設発(09:00)→大島紬村見学(09:30～11:45)→鶏飯の昼食(12:00～13:00) →名瀬のフリータイムまちあるき(13:40～17:30)夕食はまちあるきの中で各自購入 →ホテルウエストコート前集合(17:30)→バス移動→名瀬港発(18:20 フェリーあまみ) →喜界島湾港着(20:30)→宿泊施設チェックイン(20:45)
10月16日(日)	宿泊施設発(09:00)→バス移動→発掘が進む遺跡と集落散策(09:30～11:30) →バス移動→喰い処十兵衛・昼食(12:00～13:00)→バス移動→ ●羽田戻り 喜界空港発(13:35JAC3780) →鹿児島空港着/発(14:45/16:05JAL650)→羽田空港(17:15) ●奄美大島戻り 喜界空港でお見送り→朝日酒造見学(13:15～14:30) →喜界空港発(15:15JAC3834)→奄美空港着(15:30)
荒天時代替案	●1日目:集落行事(種おろし)は代替え不可のため、ホテルで夕食後、解散 ●2日目(喜界島へ行ける場合):まちあるきは小雨決行。台風時等は以下のプラン 野生生物保護センター(14:30～16:00)→バス移動(16:00～16:30) →海洋展示館見学、ウミガメの餌やり体験(16:30～17:15) →バス移動で名瀬新港へ(17:15～17:45)→喜界島行きフェリー出港(18:20) ●2日目(喜界島へ行けない場合):海洋展示館見学後、名瀬の市街地へ移動し夕食。 (名瀬のホテル宿泊) ●3日目(喜界島へ行けない場合):ホテル出発(10:00) →宝勢丸の鰹節製造工程見学(10:30～12:00)→宝勢丸で昼食(12:00～13:00) →奄美空港へ向けて移動

②奄美大島と徳之島のモニターツアー

『奄美群島アイランドホッピング モニターツアーその2～徳之島で闘牛と散歩!』

奄美大島(古仁屋)でマグロを味わい徳之島でシマグチ漫談、世界自然遺産候補地の三京(みきょう)林道トレッキングと闘牛と散歩、人気の集落カフェで昼食など徳之島の人と牛と集落をDEEPに楽しむ旅

●日程:2016年11月25日(金)～27日(日)の2泊3日

●旅行代金:¥32,000円(奄美大島集合解散)

奄美大島と徳之島のモニターツアー旅程	
11月25日(金)	◎JAL 便利利用 羽田空港発(08:10 JAL643) →鹿児島空港着/発(10:05/11:05 JAC3727)→奄美空港着(12:10) ◎バニラ便利利用 成田空港発(09:40 JW821)→奄美空港着(12:30) →昼食(13:00～13:40/ばしや山村)→バス移動 →環境省野生生物保護センター見学(15:15～16:30)→バス移動

	→宿泊施設チェックイン(18:30)→古仁屋でマグロの夕食(19:00～)
11月26日(土)	<p>宿泊施設発(09:00)→古仁屋漁港ターミナル発(10:00 フェリーあまみ)</p> <p>→徳之島平土野港着(12:20)→バス移動</p> <p>→シマグチ漫談付き昼食(12:45～14:15)→バス移動→三京(みきょう)集落の説明 ～世界自然遺産候補地の林道トレッキング(14:45～16:45)→バス移動</p> <p>→集落の道を闘牛と散歩(17:00～17:50)→バス移動→宿泊施設チェックイン(18:30)</p> <p>→島の食材の創作料理の夕食(19:00～)</p>
11月27日(日)	<p>宿泊施設発(10:00)→バス移動→農産物直売所の百菜で買い物(10:30～11:30)</p> <p>→バス移動→阿権の人気カフェで昼食(12:00～13:00)</p> <p>→ガイド付き集落散策(13:15～14:30)→バス移動</p> <p>●羽田戻り →徳之島空港発(15:40 JAC3796)</p> <p>→鹿児島空港着/発(16:40/18:35 JAL652)→羽田空港着(20:10)</p> <p>●奄美大島戻り →徳之島空港で鹿児島経由のツアーメンバーお見送り(15:40)</p> <p>→バス移動→亀徳新港着(16:30)→亀徳新港発(17:00クイーンコーラル8)</p> <p>→名瀬港着(20:30)</p>
荒天時代替案	<p>●2日目(徳之島へ行ける場合):古仁屋港からフェリー乗船</p> <p>→シマグチ漫談付き昼食(12:45～14:15)→バス移動</p> <p>→三京(みきょう)集落についてお話を聞き集落やサトウキビ畑を散策(14:45～16:45)</p> <p>→バス移動→集落の道を闘牛と散歩(17:00～17:50)→バス移動</p> <p>→宿泊施設チェックイン(18:30)→島の食材の創作料理の夕食(19:00～)</p> <p>●2日目(徳之島へ行けない場合):ホテル出発・バス移動(10:00～11:15)</p> <p>→宇検村の直売所で買い物(11:15～11:45)→バス移動(11:45～12:00)</p> <p>→宇検食堂で昼食(12:00～13:00)→バス移動・車窓風景見物(13:00～14:30)</p> <p>→海洋展示館見学、ウミガメの餌やり体験(14:30～15:45)</p> <p>→バス移動(15:45～16:30)→名瀬へ移動しホテルチェックイン</p> <p>●3日目(徳之島へ行けない場合):ホテル出発・バス移動(10:00)</p> <p>→宝勢丸の鰹節製造工程見学(10:30～12:00)→宝勢丸で昼食(12:00～13:00)</p> <p>→奄美空港へ向けて移動</p>

③モニターツアー実施風景



■泥染め体験(奄美大島)



■郷土料理の鶏飯で昼食(奄美大島)



■湾港のフェリー下船(喜界島)



■埋蔵文化財センター見学(喜界島)



■ガイド付き遺跡散策(喜界島)



■古仁屋港のフェリー乗船(奄美大島)



■シマグチ漫談と昼食(徳之島)



■三京林道トレッキング(徳之島)



■闘牛と散歩(徳之島)



■人気の集落カフェでガイドさんと昼食(徳之島)

3-2 モニターツアーのアンケート調査結果

(1) 奄美大島と喜界島のモニターツアーアンケート調査結果

モニターツアー参加者8名を対象にツアー内容の満足度や課題、魅力等についてアンケート調査を実施した。以下にその結果を示す。

(人)

居住地		性別		出身地	
1.北海道	1	1.男性	4	1.北海道	0
2.東北	0	2.女性	4	2.東北	1
3.関東	1			3.関東	1
4.中部	1			4.中部	1
5.近畿	0			5.近畿	1
6.中国	0			6.中国	1
7.四国	0			7.四国	1
8.九州	5			8.九州	2
居住地内訳		年代		出身地内訳	
福岡	2	1.~10代	0	鹿児島県	2
鹿児島	2	2.20代	0	長野県	1
長崎	1	3.30代	2	東京都	1
東京	1	4.40代	3	京都府	1
北海道	1	5.50代	2	秋田県	1
長野	1	6.60代	1	愛媛県	1
		7.70歳以上	0	広島県	1

(人)

奄美大島来訪経験		年間旅行頻度		旅行情報入手手段	
1.ある	4	1.年1~2回	2	1.旅行会社等のサイト	1
2.なし(今回が初)	4	2.半年に1~2回	1	2.旅行ガイドや旅行雑誌	3
		3.2~3か月に1~2回	3	3.友人知人等のクチコミ	2
		4.1か月に1~2回	1	4.TVの旅行番組	2
		5.上記以外	1	5.旅行のクチコミサイト	0
		FA		6.上記以外	3
		2~3年に1回	1	FA	
				・友人からのさそい	
				・関係者から	
				・目的地の観光協会等のHPや個人のブログ	

(人)

国内離島旅行経験		ツアー参加理由	
1.ある	8	1.内容全体に興味	2
2.なし	0	2.奄美大島に興味	3
		3.喜界島に興味	1
		4.奄美大島の伝統芸能に興味	4
		5.大島紬の体験に興味	1
		6.田中一村の作品に興味	1
		7.喜界島の遺跡に興味	2
		8.その他	1

【1日目】 (人)

奄美パークの満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	1	<ul style="list-style-type: none"> ・説明はとても興味深く良かったのですがもう少し自由に見学したかった。 ・前半の展示の説明がちょっと長すぎた。田中一村をもっとじっくり見たかった。一村の庭も。展示が多いので自由時間が沢山ある方が良い。 ・もう少しじっくり見たかった ・もう少し展示物をじっくりと見たかった。文化を知りたい。奄美は琉球、薩摩、土着と多様な文化が混ざっているので。 ・初めてだったらいいかも、展示内容があまり変わらない、奄美大島本島以外の島の事が弱いかな
2.満足	2	
3.やや満足	2	
4.やや不満	3	
5.不満	0	
6.非常に不満	0	

【1日目】 (人)

集落行事(種おろし)の満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	4	<ul style="list-style-type: none"> ・あのような行事があるのを初めて知りました。皆さん(集落の方)が楽しそうなのが印象的 ・貴重な体験だった。また地元の方々がオープンマインドで受入れてくれて嬉しかった。 ・案内人がいたからこそその体験 ・旅人(よそ者)をあたたかく迎えてくれた ・行事の意味、所作の意味を知りたいと思いました。 ・祭りの前日などに歌・おどりを1曲だけでもレクチャーしてもらって本番にのぞむとかおもしろいかも。祭りの意味、踊りの意味などをもう少し聞きたかった。地元のウェルカムな感じはとても良かったし楽しかった。 ・事前に種おろしの事について(何の為にを行うのか等)レクチャーあると良い
2.満足	2	
3.やや満足	2	
4.やや不満	0	
5.不満	0	
6.非常に不満	0	

【1日目】 (人)

宿泊(ばしゃ山村)の満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	1	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の散歩のアクティビティがとても良かった。 ・ロケーションは良いと思うが設備面が古い、コンセントが少ない。 ・フロ、トイレを改善してほしい。海が目の前で気持ち良かった。夕食で子供のうどんだけ食べさせてもらえて助かった。(注文は子供用のうどんとおにぎりだけ) ・部屋のユニットバスが狭いので使いづらい。
2.満足	3	
3.やや満足	2	
4.やや不満	2	
5.不満	0	
6.非常に不満	0	

【2日目】 (人)

大島細村の満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	2	<ul style="list-style-type: none"> ・工程を丁寧に説明していただき分かりやすかった。おじさんのフレンドリー加減も良かった。
2.満足	4	
3.やや満足	2	
4.やや不満	0	
5.不満	0	
6.非常に不満	0	

【2日目】 (人)

昼食(鶏飯ひさ倉)の満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	3	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ方のバリエーションもしくはもう1品ほしい。単調になる。初めて食べることが出来て満足だが何度も食べたくなるとは思わなかった。 ・ひつまぶしのように1杯目、2杯目と異なる食べ方を提案してみることはできないですか？ただし途中でちょっと飽きます。同じ味でご飯2~3杯はたいへん。
2.満足	2	
3.やや満足	2	
4.やや不満	1	
5.不満	0	
6.非常に不満	0	

【2日目】 (人)

客船ターミナルの満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	0	<ul style="list-style-type: none"> ・天候で非常に揺れたため(天候の問題のみです) ・ターミナルの施設が少なすぎなのが少々不満 ・コンテナの積み下ろしを見るのが面白かった。 ・弁当があれば買うのに
2.満足	3	
3.やや満足	1	
4.やや不満	2	
5.不満	1	
6.非常に不満	0	
7.未記入	1	

【2日目】 (人)

喜界島行きフェリーの満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	1	<ul style="list-style-type: none"> ・普通、ゆれるもよし。 ・操舵室見学(しかも夜間)には感激した ・子供連れが利用しやすい置の食事スペースがあると良い。 ・自販機のおつりが不足して買えなかった
2.満足	4	
3.やや満足	2	
4.やや不満	0	
5.不満	1	
6.非常に不満	0	
7.未記入	0	

【2日目】

喜界島行きフェリーの魅力や満足度を高めるために必要なこと	
<ul style="list-style-type: none"> ・会社として生活航路としての考えが優先してしまい逆に皆さんの意見を知りたい。(魅力や満足度向上に)観光用の大型画面での案内。 ・いろいろな乗り物をのりあわせるのは面白いと思います ・夜なので2時間は飲んで食べるしかないと思う。喜界島の情報が事前にあれば良い。 ・観光用インフォメーションコーナー ・フェリーの時間の過ごし方にはある程度経験知が必要だと思います。グループなのか、1~2人なのか、また乗船時間の長さで過ごし方が違うので一概にいけない。食事、休憩、娯楽、学習といった手段もあり、最適なものが選べるか提示してくれると嬉しいかも。 ・操舵室の見学は非常に満足した。ツアー等で「特別」として数名だけ入れるようにしてはどうか？ 	

【2日目】 (人)

宿泊(喜界第一ホテル)の満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	0	<ul style="list-style-type: none"> ・かび臭い ・禁煙ルームが空いていなかったから仕方がないが、喫煙ルームの煙草臭さは結構キツかった。 ・離島ならではの食材を活かした食事が食べたい。設備が古い。やや清潔感に欠ける。 ・大きな不満はないのですが、満足できるポイントも特にありませんでした。 ・シャワーの温度調節が難しい
2.満足	0	
3.やや満足	5	
4.やや不満	2	
5.不満	1	
6.非常に不満	0	

【3日目】 (人)

遺跡見学の満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	4	<ul style="list-style-type: none"> ・少し説明が長くて足が疲れてどこかで座りたかった。 ・ガイドありが大いによろしい。 ・丁寧でとても分かりやすかった。喜界島にあのように多くの遺跡があるとは知らなかった。ガイドの外内さんの名前を覚えられませんでした。まちあるきルートができればルートマップ、ガイドさんの名前が入った資料があると良いと思います。手洗いは各自で行きましたが「どこでできる」というインフォメーションしたほうが安心だと思います。
2.満足	4	
3.やや満足	0	
4.やや不満	0	
5.不満	0	
6.非常に不満	0	

【3日目】 (人)

集落散策の満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	3	<ul style="list-style-type: none"> ・雨で予定の散策ができなかったがまわったポイントは充分魅力的だった。 ・今回はできなかったが実行していたらかなり面白いものになったと思う。 ・朝日酒造の見学の満足度は「非常に満足」。直汲みがあれば最高！購入したいと思う人は多いと思うので消費のチャンスを逃さないでほしい。
2.満足	1	
3.やや満足	0	
4.やや不満	0	
5.不満	0	
6.非常に不満	0	
7.未記入	4	

【3日目】 (人)

昼食(十兵衛)の満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	2	<ul style="list-style-type: none"> ・今回初めてのしっかりした郷土料理でこちらが尋ねる前に簡単に説明が欲しかった。 ・島のお料理の解説をする。 ・料理の説明があると嬉しい ・食事の内容や名前を説明してほしい。島の食材や島ならではの料理があったのに説明がないと分からない。ガイドさんと食事をとることができたのは良いと思う。 ・ボリュームが足りなかった、ご飯はお代わりができれば良い。
2.満足	2	
3.やや満足	3	
4.やや不満	0	
5.不満	1	
6.非常に不満	0	

【3日目】 (人)

喜界空港の満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	1	<ul style="list-style-type: none"> ・思ったより小さかったが荷物を持って歩き回らなくて良かった。狭さも気にならなかった。 ・やはり狭すぎて窮屈でした。せめて出発と到着は分けてほしい。 ・普通、待ち時間に外でくつろげるスペース。 ・待合い室が狭い、土産店ももう少し広いと良いが。 ・管制塔のない空港は初めて。駅舎のような雰囲気もおもしろい。 ・離島らしくて良かった。まるで電車やバスの乗り場のよう。変えずに残してほしい。
2.満足	3	
3.やや満足	1	
4.やや不満	2	
5.不満	0	
6.非常に不満	0	
7.未記入	1	

【3日目】 (人)

プロペラ機の満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	1	<ul style="list-style-type: none"> ・乗ってから飛ぶまでの時間が短くて良い。 ・時間が短いので評価しにくい。乗降の際、飛行機を間近で見られるのがプロペラ機のよいところ。 ・飛行時間の短さをアナウンスしてもよいのでは？
2.満足	6	
3.やや満足	1	
4.やや不満	0	
5.不満	0	
6.非常に不満	0	
7.未記入	0	

【3日目】

プロペラ機の魅力や満足度を高めるために必要なこと	
<ul style="list-style-type: none"> ・島全体が見えたのでそういうご案内があっても良かった。 ・晴れてる時など遊覧飛行的な要素を入れるとか、天候不良で遊覧できない時は何かプレゼントするなどの救済策も欲しい。 ・間近で写真が撮れる。 ・機内でシマ唄を流す。(JTAが離陸前や着陸後にやっているように)管制塔がない等の特徴をアナウンスや紹介してはどうか？島言葉であいさつする。 	

【3日目】 (人)

ツアー全体の満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	3	・ツアー参加者が皆さん興味を持っていたり好奇心があるので楽しく過ごせた。ニッチなツアーなので興味が無い人が混ざるとツライと思う。
2.満足	5	
3.やや満足	0	
4.やや不満	0	
5.不満	0	
6.非常に不満	0	

(人)

奄美大島からの島別の利用交通機関		
a.喜界島		
1.船舶(約2時間10分、¥3,600)	5	←1名未記入
2.航空機(約20分、¥10,700)	2	
b.徳之島		
1.船舶(約3時間20分、¥2,980)	6	←1名未記入
2.航空機(約35分、¥14,900)	1	
c.沖永良部島		
1.船舶(約5時間40分、¥4,530)	0	←1名未記入
2.航空機(約40分、¥18,900)	7	
d.与論島		
1.船舶(約7時間50分、¥5,760)	0	←1名未記入
2.航空機(約45分、¥22,000)	7	
2~3時間の船舶移動時の過ごし方		寄せられたコメント
1.景色を楽しみたい	7	・次に上陸する場所のカンタンご案内レクチャー ・海上で見えるものは何？その案内がほしい。
2.船内のレストランで飲食	1	
3.船内の売店で買い物	0	
4.読書や音楽を聴くなど一人で楽しみたい	1	
5.客室で昼寝など休憩	6	
6.船に乗っている地元の人と話をしたい	3	
7.操舵室などの船内施設の見学	6	
8.その他	2	
宿泊を含む船舶移動であると良いサービス		寄せられたコメント
1.下船後の交通機関の情報提供	5	・関係雑誌が読めるとありがたい。 ・パッケージなら1,2,3は不要、個人なら必要 ・奄美群島や南西諸島に関連する書籍は販売ではなくライブラリーの方が嬉しい。 ・ライブという程のものは必要ないがちょっと三線を教えてもらえたり、地元の方言を教えてもらえたりといった前学習的なものがあると良い。 ・星空観察、目覚めのヨガとかストレッチ、星や日の出の撮影会
2.下船後の宿泊施設やレンタカー予約	2	
3.下船する島の体験やショートツアー予約	3	
4.シマ唄ライブ等の地域性の強いイベント	3	
5.レストランで郷土料理や名物料理の提供	4	
6.売店で各島の特産品や農産物販売	0	
7.奄美群島や南西諸島に関連する書籍販売	2	
8.各島の観光パンフレットやマップ配布	7	
9.その他	3	

奄美大島現地集合・解散の場合、妥当と思う大人1人分の価格			
(2泊3日分の宿泊費、体験見学費、奄美大島～のフェリー料金、喜界島～奄美大島の航空運賃を含む)			
(人)	寄せられたコメント		
¥85,000	1	・交通費をもう少し削りたい(集落行事:¥3,000、宿泊:¥8,000×2泊、フェリーと飛行機:¥14,000、昼食:¥1,500×2食、まちあるきと朝日酒造見学:¥3,000)	
¥80,000台～	1		
¥60,000未満	1		
¥50,000	1		
¥45,000	1		
¥35,000～¥40,000	1		
¥35,000	1		
¥29,000	1		
参加前の期待との比較		奄美群島で興味のあるツアー内容	
1.期待したものより楽しかった	6	1.奄美群島の歴史や文化	6
2.期待どおりのものだった	2	2.奄美群島の動植物や自然	5
3.期待したものより楽しくなかった	0	3.奄美群島の郷土料理や食文化、黒糖焼酎	5
		4.奄美群島のマリンスポーツ	0
		5.奄美群島の生活文化(集落行事の参加等)体験	5
		6.奄美群島の商店街や集落のまちあるき	3
ツアーへの再来訪意向		7.奄美群島の戦跡	0
1.是非参加したい	2	8.その他	0
2.参加したい	6		
3.あまり参加したくない	0		
4.参加したくない	0		

● モニターツアーの感想や魅力向上への意見

<p>・今回初めてモニターツアーに参加しましたがとても楽しめました。船会社の者として地元住民以外の方の利用をもっと増やす又、船舶があることをアピールしていかななくてはと思いました。</p>
<p>・奄美パークでの導入から始まり概要を教えていただき旅行がスタートしましたので分かりやすく地域の文化に直接触れる事ができ有意義でした。田中一村美術館や大島紬体験、朝の散歩で見る植物やラジオ体操などすべてが新鮮でした。ありがとうございました。補足ですが八月踊り体験、喜界島での遺跡めぐり等、歴史文化に触れる旅はとても充実していました。あえていえば、食事に関して郷土料理を楽しむ点で少々物足りなさもありました。</p>
<p>・例えば昔からの暮らしをしている民家(農家)訪問ができるとうい。天気の悪い時の替案としても良いかも。果物にスポットをあて奄美のフルーツのパフェやアイスを食べるプランなども良いかも。なかなか店頭で売っているものを食べられないので。</p>
<p>・キーワードはガイドさん、地元人、地元</p>
<p>・喜界島を丸一日楽しみたいところだが奄美大島と両方とすると2泊3日ではなかなか難しい。フェリー利用も魅力的なのだが効率性を考えると難しい。フェリーの場合、移動中も旅としてどう演出するかがポイントになる。ライブハウスは、船酔いと夜22時過ぎの到着になったため行けず残念。</p>
<p>・(Q8の島別に船と飛行機を選ぶ場合:東海汽船のように高速ジェット船なら船舶の可能性が高まると思う。)宿泊施設はもう少しグレードを高くしてもよいのでは?その分、費用が上がっても問題ありません。食も充実してほしい。ご厚意で見学させていただいた朝日酒造さんには非常に満足でした。朝日酒造さんでお金を使いたかったです。</p>
<p>・(Q8の島別に船と飛行機を選ぶ場合:帰路は飛行機にして時間を節約したい)種おろしの参加にハマる人が出てくると思います。お祭りそのものだけでなく、前後に地元の人と関われるきっかけと一緒に仕込むと良いのではないのでしょうか?アイランドホッピングは船の時間帯が鍵になるのでは?もう少し早い時間帯に離島に移動できると良いと思う。喜界島の滞在時間が短かった。島ごとの特徴をもっと明らかにした資料が船内に掲示してあると良い。なかなか一般受けする内容ではないかもしれませんが好きな人はお金を落とすだろうし地域を理解してくれると思うので「観光地」になっていない地域には良い客が来訪できることになりそう。アイランドホッピングは高いツアーになるのでお金を払ってでも行きたい!と思わせるPRをしっかりしないと、と思う。</p>
<p>・喜界島が初めてだったこともあり、慌ただしいスケジュールだったがとても良かった、楽しかった。</p>

(2) 奄美大島と徳之島のモニターツアーアンケート調査結果

モニターツアー参加者8名を対象にツアー内容の満足度や課題、魅力等についてアンケート調査を実施した。以下にその結果を示す。

(人)

居住地		性別		出身地	
1.北海道	1	1.男性	5	1.北海道	0
2.東北	0	2.女性	3	2.東北	1
3.関東	2			3.関東	3
4.中部	0			4.中部	0
5.近畿	1			5.近畿	1
6.中国	0			6.中国	0
7.四国	0			7.四国	0
8.九州	4			8.九州	3
居住地内訳		年代		出身地内訳	
鹿児島県	3	1.～10代	0	鹿児島県	2
東京都	2	2.20代	0	東京都	2
北海道	1	3.30代	2	秋田県	1
兵庫県	1	4.40代	3	神奈川県	1
長崎県	1	5.50代	2	兵庫県	1
		6.60代	1	長崎県	1
		7.70歳以上			

(人)

奄美大島来訪経験		年間旅行頻度		旅行情報入手手段	
1.ある	4	1.年1～2回	3	1.旅行会社等のサイト	2
2.なし(今回が初)	4	2.半年に1～2回	1	2.旅行ガイドや旅行雑誌	2
		3.2～3か月に1～2回	2	3.友人知人等のクチコミ	5
来訪回数内訳		4.1か月に1～2回	2	4.TVの旅行番組	3
9回	1	5.上記以外		5.旅行のクチコミサイト	2
6回	1			6.上記以外	1
3回	1			FA	
多数	1			Tripadvisor,Tripadvisor,4travel,Ozmall	

(人)

国内離島旅行経験		ツアー参加理由	
1.ある	8	1.内容全体に興味	5
2.なし	0	2.奄美大島に興味	6
		3.徳之島に興味	4
来訪離島内訳		4.奄美大島の自然や生物に興味	4
屋久島、与論島、八丈島、		5.奄美大島の食文化(鶏飯や黒糖焼酎)に興味	5
青ヶ島、飛鳥、西表島、宮		6.徳之島の自然や生物に興味	4
古島、種子島、徳之島、甌		7.徳之島の闘牛に興味	3
島、沖縄、石垣島、初島、		8.徳之島の集落に興味	2
焼尻島、五島列島、三島村		9.奄美・琉球の世界自然遺産に興味	3
		10.その他	1
		FA	
		今後、情報発信をする上で素材収集。交通アクセス(特に船)の確認	

【1日目】 (人)

昼食(ばしゃ山村、鶏飯)の満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	2	<p>・天気が良かったので、外のテラスで食事したらリゾートの雰囲気が一層味わえると思います。</p> <p>・天候も回復して景観がとても良かった。昼食、海、お土産等時間が必要なものが多いので滞在時間を長くすると嬉しい。</p> <p>・建物、目の前のビーチと気持ちいい施設。・ロケーション、到着後直ぐに奄美の絶景を堪能できる行程、鶏飯の味とも全て良かった。欲を言えば、ばしゃ山村の土産品のラインナップをもう少し垢抜けたものにして欲しい。</p> <p>・味、雰囲気ともに良。その日の天候や人数にもよるが外で食べられるともっと良い。飲酒の可否も明示が必要かと。</p> <p>・奄美の郷土料理鶏飯が食べられて大満足でした。ばしゃ山村では初めていただきました。海を見ながら食べられるのが良かったです。食べた後は海岸を散策。お土産を見る時間が少なくなってしまったのが残念でした。</p>
2.満足	5	
3.やや満足	0	
4.やや不満	0	
5.不満	0	
6.非常に不満	0	
7.未利用	1	

【1日目】 (人)

野生生物保護センターの満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	1	<p>・世界自然遺産登録候補地となった地理的歴史の説明に加え、自然と調和してきた暮らしぶりが奄美の魅力につながっているという全体像の説明が大変わかりやすかった。</p> <p>・なぜあの場所(地域)に立地しているのか気になった。保護された動物が見られるとのではという期待感を持つ人は多いように思う。</p> <p>・施設内はとてもきれいで展示品が見やすい。外のスペースももっと有効活用ができるといいと思います。・施設の入口に奄美諸島の概要図を掲載、その後①各諸島、②動植物の説明という流れがあれば理解しやすかったかも。そのような施設構成ならば、すいません。気が付きませんでした。あと、せっかく広い野外があるので、動植物の展示があれば嬉しい。</p> <p>・レンジャーの方の説明にもう少し元気が欲しい。パワポではなく館内の展示を使いながらのレクチャーで良いのでは。・所用(時間)対効果を考えるとわざわざ行く価値があるかどうか。</p> <p>・映像とレンジャーさんのお話は興味深いのですが、館内の案内もしてほしかったです。</p>
2.満足	2	
3.やや満足	2	
4.やや不満	1	
5.不満	1	
6.非常に不満	0	
7.未利用	1	

【1日目】 (人)

夕食(JUICE,クロマグロ井)の満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	0	<p>・おいしかったです。他のお客さんも居てもう少し賑わっていただければいいと思いました。</p> <p>・近大マグロを食べたかったけどマグロ井おいしかったです。</p> <p>・もっとカジュアルに皆で取り分けて食べるようなスタイルでも良かった。</p> <p>・大阪に比べると、奄美のマグロはすごく旨い。関西のマグロは旨くないので、関西人には喜ばれそう。</p> <p>・味は素晴らしかったが夜ご飯くらいは2~3つから選ぶスタイルでも良いかもしれない。</p> <p>・長崎人はあまりマグロに対して有難味を感じない。関東圏の人には良いと思う。店の大将は話しやすくて良かった。</p> <p>・色どりも良く、量も多く、美味かったです。島唄のライブが聞きたかったです。近大マグロが食べられなくて残念でした。</p>
2.満足	5	
3.やや満足	2	
4.やや不満	1	
5.不満	0	
6.非常に不満	0	
7.未利用	0	

【1日目】 (人)

宿泊(ライブストイン奄美)の満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	0	<p>・清潔感あり。おもてなしの気持ちが行き届いている感じ。部屋の設備不具合にも迅速に対応いただいた。・宿泊していないのでコメントできず、ただ模型コレクションは見ごたえあり。</p> <p>・シャワー圧力が弱かった、お湯になるまで少し時間がかかる、展示室の迫力はすごかった、ホテルの宿泊者は無料となるのもいい。</p> <p>・清潔で過ごしやすかった。広さも充分。・広くて、のんびり。ふだんの出張では、こんな部屋に泊まれない。</p> <p>・清潔であり個人的には非常に快適だったが、「アイランド・ホッピング」というテーマの宿としてはやや無機質かもしれない。</p> <p>・多分大リニューアルをされてるようで、外観より部屋は広く清潔。ただし喫煙者には不向き。非常階段に喫煙コーナーはあるものの屋根もなく雨天ならわざわざ傘を持って・・という事になる。</p> <p>・入口のドアの開け方が分からなかったです。お部屋はとてきれいに掃除されていて、快適に過ごすことができました。朝食も美味しかったです。地産地消を意識したものやそれが分かるものがメニューにあると嬉しい。奄美戦史模型資料館はマニアにはたまらないと思います。レベルが高い！</p>
2.満足	6	
3.やや満足	0	
4.やや不満	1	
5.不満	0	
6.非常に不満	0	
7.未利用	1	

【2日目】 (人)

客船ターミナルの満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	2	<p>・1階食堂をオープンし、軽い海鮮メニューや特産品のドリンク等があればベター。</p> <p>・ターミナル内の魚販売？の店が営業しておらず残念。</p> <p>・ターミナル内は広く、また、外のオブジェなど撮影ポイントがあり楽しめる。</p> <p>・待ち時間を過ごすにはベンチが少なかつたのでは。気のせいでしょうか。フェリーでわたる島の観光情報・地図を手に入れたかった。</p> <p>・いろいろと勿体ないと感じた。奄美大島のクライマックスであり「奄美大島はここが最後」と言われれば財布の紐は緩む。物販や情報発信をもっと強化すれば旅行消費を喚起するとともに再訪のフックになり得るスポット。</p> <p>・待合室から乗船するまでの距離があり過ぎ。風雨が強い時など、荷物を持っての移動や乗船待ちはかなり辛いのでは。ターミナル内の食堂は出港時に合わせ営業されているべきだと思う。</p> <p>・外にあるお魚のプール(?)とか鐘、マグロのオブジェ、海の駅の中の売店、顔抜きパネル、観光案内所etc.楽しめるポイントが沢山ありました。食堂のマグロ定食を頂いたことがありましたが、けっこうボリュームがあり満足感があつたと思います。</p>
2.満足	1	
3.やや満足	1	
4.やや不満	4	
5.不満	0	
6.非常に不満	0	
7.未記入	0	

【2日目】 (人)

徳之島行きフェリーの満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	2	<p>・甲板でゆったり過ごすためのベンチと小テーブルが欲しい。</p> <p>・アイスの自販機が故障していた。且つ、故障の表示がないため何度か購入をトライして判明した。</p> <p>・船内は広く女性専用の部屋もあり過ごしやすい。</p> <p>・思ったよりも大きな船で安心しました。</p> <p>・ごく普通のフェリーです。あまり観光を意識してないようでした。</p> <p>・揺れも少なく快適だったが、奄美群島全体の規模感や文化などを感じられる情報発信、具体的には自分たちが今どのあたりを航行しているのか、各島の文化の類似点、相違点の説明などがあると、島の中の移動も「ワクワク」を掻き立てられるはず。</p> <p>・あの好天下ならばデッキで過ごしたいと思うが椅子ひとつないのはいかがなものか。</p> <p>・船内はとてきれいで、においもなく快適でした。デッキにベンチがあるといいと思いました。</p>
2.満足	1	
3.やや満足	4	
4.やや不満	1	
5.不満	0	
6.非常に不満	0	
7.未記入	0	

【2日目】

徳之島行きフェリー(フェリーあまみ)の魅力や満足度を高めるために必要なこと	
<ul style="list-style-type: none"> ・天気が良く海面も穏やかであったため、島と海の風景が楽しめ気持ち良く、2時間程度の乗船時間も程よい感じ。甲板上でビールを飲みながらゆったり過ごすために、ベンチと小テーブルが欲しいですね。 ・乗船中に見える島の景観などの案内資料、アナウンスなどがあるとより楽しめるのでは？ ・観光パンフレットが見つからなかった。鹿児島県の情報を配信できるスペースが欲しい。 ・少人数のグループだと海上での周辺の案内など聞けるので退屈しません。 ・船デッキにベンチがあれば潮風にあたり気持ちよさそう。 ・いろいろな制約があって難しいかもしれないが、船外のタラップでのカフェや物販の充実などは重要だと思う。せっかく各島を巡るのであれば、各島に停泊中にその島のできたてのお弁当やパンがのってくるというようなアイデアもあって良い。そうすれば多少時間がかかってもまた別の島に行ってみよう、今度は空路ではなく海路でと考える旅行者が出てくるのでは。 ・現時点では単なる移送手段。室外の快適性を上げるべきかと思う。 ・徳之島までの船移動は、料金、時間ともに丁度よく、目的地へ近づくワクワクが感じられていいと思います。時間がこれ以上かかってしまう沖永良部、与論は限られた時間の中での船移動は時間がもったいない。利用者が少ないのが心配。島の特産品が売ってほしいと思います。あと充分な観光案内も見当たらなかったような。。。 	

【2日目】 (人)

昼食(+シマグチ漫談)満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	6	<ul style="list-style-type: none"> ・徳之島の方々の明るさとパワーを感じ楽しかったですが、昼食を取りながらは申し訳ない感じがしました。 ・大変愉快で楽しめた。 ・ご当地食材を使ったお弁当を食べながらLIVEが見れるのはお得感があつた。時間がもっとあると嬉しい。お弁当の量が少し多い、残してしまうのが残念。 ・あと3時間くらいずっと聞いていたかった。 ・かんだの大将・課長さん達が元気で、面白くて芸達者で、関西人より濃いやん。お弁当も美味しかった。食事した公民館？も、地元の歓迎を受けてる感じて、気に入ってました。 ・本当に素晴らしかった。強いて改善点をあげれば、パソコンのバックモニターは不要だと思った。またお弁当の容器もできればプラスチックではなく漆調の松花堂弁当タイプにしてはどうだろうか。 ・客扱いにも長けており楽しいが、あまりステージ的に設え過ぎるのはいかがなものか。サプライズ的に歌い出すとかあると面白いと思う。 ・神田さんのお話が大変面白かったです。島の民俗文化に触れるいい機会でした。島の素材をふんだんに使ったお弁当におもてなしの心がつまっているようで嬉しかったです。
2.満足	0	
3.やや満足	2	
4.やや不満	0	
5.不満	0	
6.非常に不満	0	
7.未記入	0	

【2日目】 (人)

三京めくしショップの満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	0	<ul style="list-style-type: none"> ・この地に対する区長さんの思いが伝わり、温かい気持ちになりました。 ・天気の良い日は屋外にイスやテーブルなど出して休めるとよいのでは。 ・説明を聞きながらお茶やお菓子を頂けるのはうれしいが、説明用のボードがあると見やすい。 ・お昼ご飯のあとのスイーツはちょっときつかったです。 ・お菓子は美味しかったが、説明を聞いた方が良いのか、お菓子を食べた方が良いのか、やや困った。女性には良いかもしれないが、男性陣にはやや量が多かったように感じた(スイーツ男子は喜ぶかも?) ・話やサービスは良。ただ昼食から間がなかったためセットとして量が多すぎでは？小食の人にはつらいかも。 ・島のフルーツやお茶を使ったスイーツが頂けて美味しかったです。写真が多く飾られていてお話も聞けるので、観光客にはいい立寄りスポットだと思います。手作りのガイドブックも素敵です。三京地区についての説明をもう少し詳しく聞きたかったです。
2.満足	6	
3.やや満足	2	
4.やや不満	0	
5.不満	0	
6.非常に不満	0	
7.未記入	0	

【2日目】 (人)

三京林道トレッキングの満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	0	<p>・林道歩きはもう少し山の中に深く入りたい気分でしたがハブがいるので仕方ないですね。専門的な自然の知識も混ぜながら決して押し付け的ではなく、集落の人々の自然との関わり方等のよもやま話もあり、くつろげるトレッキングでした。</p> <p>・もう少し解説が欲しかった(説明はあったが、)。</p> <p>・林道を歩くのは楽しいが、時期が難しい。ハブに気が行って説明が聞きとれなかった。ガイドの説明は詳しく素晴らしかった。</p> <p>・もう少し長い距離でもいけました。</p> <p>・地元のガイドさんの説明を受けながらの、自分達の経験を踏まえた動植物の説明は面白かった。お茶やさとうきびなど、思いがけない展開は、地元の方の優しさを感じました。次回は、もう少し山中の未舗装道に入りたい。</p> <p>・「これから」なのだと思うが、ガイドとしてはやや物足りなかった。行程・ルートの説明、安全の確保、観光客に見せるスポット、話す内容の整理などが今後必要だと思う。何となくガイドが楽しんでいるところに観光客が付き合わされている感覚を覚えてしまった。</p> <p>・南の島の空気感が味わえて良。特に沢は印象的だった。</p> <p>・ハブがいるかもしれないので、長めの靴下を準備するなどの事前アナウンスが必要だと思います。</p>
2.満足	5	
3.やや満足	2	
4.やや不満	1	
5.不満	0	
6.非常に不満	0	
7.未記入	0	

【2日目】

徳之島の林道トレッキングの魅力や満足度を高めるために必要なこと
<p>・自然観察が目的の場合は、自然相手ですので難しい点は承知していますが、もっと生物に出会えるチャンスがあれば良いと思います。</p> <p>・もう少し長く2時間くらいにするとよいのでは？集落歩きから森に入るような変化、流れがあるとよい。</p> <p>・コース内でスポットになるもの、植物が少ない気がする。歩きやすい靴でしたが、雨など天候が悪い時はすべりやすく少し恐かったです。</p> <p>・参加者からの質問に答えるよりも先に目にする動植物の説明をしてくれるほうが会話が進みます。</p> <p>・野鳥、黒ウサギ、植物、景観等、内地とも沖縄とも違う奄美の魅力や2～3時間で周回できるコースの組合せがあれば、その時の時間・気分で散策できて良さそう。</p> <p>・世界遺産登録を目指している今の段階から、「何が徳之島の顕著で普遍的な価値なのか」を地元のガイドの皆さんで今一度議論する必要があると思う。奄美大島や沖縄との相違点、人々の文化と自然のつながりを伝えるための情報整理とガイド技術の向上が必要だと感じた。</p> <p>・可能であれば沢でなんらかの楽しみが欲しい。休憩を兼ねて島の民話を聴くとか。</p> <p>・詳しい人と歩くのが一番で、植物や生き物、鳥の鳴き声などいろんな話を聞けるのがいいと思います。ハブについて、ハブを捕まえる道具や血清の注射等を行く前に見せることは大事。</p>

【2日目】 (人)

闘牛と散歩の満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	4	<p>・予想外に満足。これまで闘牛への興味は薄かったのですが、牛を大事に育てる一家と出会うことでこの牛を応援したくなりました。</p> <p>・最初着いたとき、散歩はなくなると聞かされて驚く。その後、少し牛と歩かせてくれたのでなんとか目的を少し達せられたが、散歩の重要性をガイドがもっと強く認識し、ツアー主催者側と共有する必要性を感じた。</p> <p>・時間が遅くなると散歩ができないかも、と聞いていたので心配だったが予想以上に闘牛にふれられ写真も撮ることが出来、大満足。</p> <p>・牛のことを思うと一緒に歩かなくても良いと思います。ストレスを与えるのは可愛そうです。今回はこれで良かった。・牛も世話をする人も優しく魅力的。</p> <p>・あの迫力を間近で見られるのは非常に貴重な体験。控えめながらも牛への愛情を一生懸命語ってくれる地元の方との交流も良かった。</p> <p>・牛主さんの話がとても良い。闘牛そのものより、関わる人達の思いに触れられた事が嬉しかった。</p> <p>・お散歩できなかったことは残念でしたが、ふれあう時間を作っていただいとても良かったです。徳之島といえば闘牛。闘う荒々しい姿だけではなく、日常のおだやかな姿を見せるのも魅力を伝える上で大事。</p>
2.満足	3	
3.やや満足	1	
4.やや不満	0	
5.不満	0	
6.非常に不満	0	
7.未記入	0	

【2日目】 (人)

夕食(まっ葉、創作料理)の満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	1	<p>・贅沢なコメントですが、ボリュームは少めの方が味わって食べれるのではと思います。</p> <p>・食べきれずに余らせたのが申し訳ない。皿数とそれぞれの分量は、参加者の男女比、年齢構成でも変わるだろうからそのバランスが難しいと感じた。</p> <p>・既にお腹が満たされている状態で食べたのがとても残念。どれも見た目、味、満足でした。</p> <p>・お食事量が多すぎました。味はとっても良かったのですが。</p> <p>・おいしくて量が多くて満足が高くなり過ぎたかな。</p> <p>・非常に美味しかったがやや量が多かった。三京の甘味をたっぷり食べた後だったのでもう少し品数を絞っても良いかもしれない。</p> <p>・鄙にもまれな・・という感じで、お洒落で味も良いが、その分、田舎感は薄れる。</p> <p>・島の食材をふんだんに使っているところが良かったです。地元でしか味わえないお料理ばかりでテンションが上がりました。新商品として紹介された黒糖焼酎「MABURATTI」は大変飲みやすかったです。</p>
2.満足	5	
3.やや満足	2	
4.やや不満	0	
5.不満	0	
6.非常に不満	0	
7.未記入	0	

【2日目】 (人)

宿泊(グランドオーシャンリゾート)の満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	0	<p>・清潔感あり。Wifiがルーター貸し出し方式ではなくフリーで使えたらいいですね。</p> <p>・部屋に清潔感あってよい。全室Wi-Fi可を望む。</p> <p>・コンビニを利用するには遠いため不便かも(雨の日は)。</p> <p>・部屋にWi-Fiがないのは困ります。</p> <p>・奄美大島同様、個人的には非常に快適だったが、「アイランドホッピング」であれば民泊のような宿泊形態の方が親和性が高いかもしれない。</p> <p>・このレベルのホテルならWi-Fiは必須だと思う。</p> <p>・Wi-Fi環境を整えて欲しいです。最近FreeWi-Fiが当たり前になってきているので大変不便さを感じました。</p>
2.満足	4	
3.やや満足	2	
4.やや不満	1	
5.不満	0	
6.非常に不満	0	
7.未記入	0	
8.その他	1	
8.その他の評価:普通		

【3日目】 (人)

直売所百菜の満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	0	<p>・工夫が感じられる特産品が多々あり、徳之島のパワーを感じました。</p> <p>・お酒売っているといいんだけどなあ。※諸問題あることは理解しました。</p> <p>・持ち帰りができない品があることをうっかり忘れてしまう。看板があると良いです。</p> <p>・「こんなものが売っています」的なご案内が先にあっても良かったと思います。</p> <p>・黒糖焼酎がなかったこと、お茶の売り場が小さかったのが残念。</p> <p>・いろいろと買いたいと思っていたが意外に買えなかった。内地まで持って帰ることを考慮した商品開発、包装等の工夫が必要だと感じた。</p> <p>・価格も安く良心的。ただ島外持ち出し禁止品の明示が必要。</p> <p>・島特産の野菜、果物のほか、加工品、お土産が揃っていて見ごたえがありました。直売所から発送できるのもありがたいです。芋類は飛行機に持ち込めないで、その案内はするべきかも知れません。</p>
2.満足	6	
3.やや満足	2	
4.やや不満	0	
5.不満	0	
6.非常に不満	0	
7.未記入	0	

【3日目】 (人)

昼食(集落カフェ寄る辺)の満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	6	<ul style="list-style-type: none"> ・初めてなのにもるで親戚のような対応のおかげで、ホッと一時を過ごすことができました。 ・料理内容、建物、人、BGM、すべて良い。 ・ご家族の対応がおいしい食事に更にプラスになりました。民泊して犬の散歩をしたいです。又、伝統も教えていただき最初から最後までずっと笑顔でいられます。 ・とっても美味しくいただきました。 ・庭がきれいで、ごはんがおいしくて満足。おかあさんや家族が優しくて魅力的。ここには、また来てしまいそうな気がする。 ・「シキ」を体験させる工夫や民家の雰囲気、料理の味ともに素晴らしかった。 ・味、雰囲気、人、全て最良。是非泊まってみたい。 ・島でとれた食材を使ったお料理で、初江さんのお料理の説明に心がこもっていて嬉しかったです。おもてなしの儀式が体験できたことも良かったです。民泊していらっしゃるとのことで今回は民泊をしに来たくありませんでした。座布団がなかったのでできればあったほうが親切だと思いました。
2.満足	2	
3.やや満足	0	
4.やや不満	0	
5.不満	0	
6.非常に不満	0	
7.未記入	0	

【3日目】 (人)

阿権集落散策(説明)の満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドの方のつい引き込まれる話しぶりや、ツアー客へのさりげない気遣いに感心していました。 ・また話を聞きたい。 ・今年の2月に同じコースを周りました。今回は説明がイメージできるほど分かりやすく、指笛の練習をしながら周るのも楽しく、天気が悪いことを忘れてしまいます。 ・あのくらいの長さが丁度良かったです。ご案内が分かりやすく楽しめました。 ・このツアーで初めて琉球王国との関連性に触れられた語りが聞けた。 ・知識や経験を押しつけないガイドングも素晴らしく、晴天時にまた体験したいと思った。今回は雨でも独特の雰囲気、趣があって良かったが、一般の観光客が荒天時でもやりたがるかはやや疑問。 ・集落ガイドとして理想的。学ぶべき点が多々あった。 ・案内板が全くないため、ガイドさんによる説明がなければ魅力が分からないと思います。丸野さんの幼い頃のエピソードを交えたお話は、ガイドさんにありがちな押し付けがましさもなく、楽しく興味深く聞くことができました。指笛のレクチャーも楽しかったです。
2.満足	4	
3.やや満足	0	
4.やや不満	0	
5.不満	0	
6.非常に不満	0	
7.未記入	0	

【3日目】 (人)

阿権集落散策(景観)の満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	5	<ul style="list-style-type: none"> ・樹齢100年(?)のガジュマルは圧巻でした。 ・あの雰囲気がいつまでもそのままであることを願います。 ・建物や樹木などきちんと管理されているが、管理されすぎていないので景観がよく、写真素材として、また、SNS発信用としてもスポットが沢山あった。 ・ご案内の中に季節によりここはこうなる的な説明があると今度はいつ来ようかな?と思わせることができると思います。 ・石垣、石敢當、がじゅまる、沖縄との同じようなものが見受けられた。 ・とにかくガイドングを含めて非常に良かった。ここに1日滞在というくらいでも良い。 ・ガイドさんの高いプレゼン力でもとても印象深く満足度が高い。 ・石垣も300年のガジュマルもとても印象的で見ごたえがありました。ガジュマルは個人宅へ入らないと、より近くへ行けないので、それはガイドさんと散策できてこそなので、ありがたいでした。
2.満足	3	
3.やや満足	0	
4.やや不満	0	
5.不満	0	
6.非常に不満	0	
7.未記入	0	

【3日目】 (人)

徳之島空港の満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	0	<p>・満足といたいところですが、利用しなかったため無回答といたします。</p> <p>・普通。徳之島のポスターだけでなく顔抜き看板など増やしてほしい。(例えば闘牛場の看板)旅行から戻ってきて思い出話の材料になりやすいから。</p> <p>・可もなく不可もなくです。</p> <p>・古仁屋の乗船ターミナル同様、もっと「クライマックス」感を醸成する工夫があっても良い。土産品の品揃え、陳列等々は少し変えれば大きな効果があると思う。</p> <p>・離島の空港としては普通。・小さくてこんじまりとしているので館内も分かりやすく特に不便さは感じませんでした。空港の中に観光協会があると聞いていましたが、時間がなくて確認できなかったのが残念でした。検査場に入っている待合所にあった売店のお姉さんが気さくな方で感じのいい方でした。</p>
2.満足	3	
3.やや満足	2	
4.やや不満	0	
5.不満	0	
6.非常に不満	0	
7.未利用	2	
8.その他	1	
8.その他の評価:普通		

【3日目】 (人)

プロペラ機の満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	1	<p>・高度が遊覧観光に近いので、飛行中の景色が楽しめた。</p> <p>・機内は音もとつうさと思っていましたが、静かだと思います。帰りは揺れましたが窓の外から見える景色は最高です。ただ窓をもう少し拭いていただければ写真がきれいに撮れます。</p> <p>・つばさのそばの席ですーっとガタガタでしたが、いたし方ないです。</p> <p>・桜島も見え、かなりの「観光路線」だと思う。事前に情報発信して「桜島が見られるので復路は進行方向左側の席を！」といった情報発信があっても良い。</p> <p>・悪天候でかなり揺れたがサイズなど考えるとしょうがない。</p> <p>・鹿児島空港まで約1時間、あつという間の空旅でした。</p>
2.満足	4	
3.やや満足	0	
4.やや不満	1	
5.不満	0	
6.非常に不満	0	
7.未利用	2	

【3日目】

プロペラ機の魅力や満足度を高めるために必要なこと	
<p>・機内で配られたパンフレットがもう少し分かりやすいと嬉しいです。</p> <p>・ジェット機よりもエコ(?)ならそれをアピールするのも良いかと思います。</p> <p>・空港や機内の情報インプットには改善の余地があるとう。「お客様の左手に〇〇が見えます」という機内アナウンスをするだけで観光客の印象は大分違う。</p> <p>・窓外に見えてくる島々の案内があると良い。</p>	

【3日目】 (人)

プロペラ機の満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	2	<p>・地元の方とふれ合うことによってその地を身近に感じることができると、あらためて感じた点。</p> <p>・非常に満足と書きたいところでしたが、運営側でもあったため自己改善点も諸々あることを鑑みて..自分への課題も含めて…</p> <p>・1日目、2日目と天気も良く内容も偏りがなく飽きない内容でした。</p> <p>・不満だったのは、徳之島の宿(Wi-Fiなし)と食事の量が多すぎたことくらいです。</p> <p>・コースは設定されていたけど、ガイド役の地元の方と話しながら内容が変わっていくのが楽しい。</p> <p>・島独特の「緩い」部分含め、非常に充実していた。旅行行程の管理についてギリギリの線をクリアできれば(近大マグロや闘牛と散歩等々)「商品」化も可能ではないか。</p> <p>・定番の観光地をまわるのではなく、島の人とふれあいながら、その土地ならではの観光ばかりだったので大変満喫することができました。約10名という少人数だったことも良かったのだと思います。</p>
2.満足	5	
3.やや満足	1	
4.やや不満	0	
5.不満	0	
6.非常に不満	0	
7.未利用	0	

(人)

奄美大島からの島別の利用交通機関			
a.喜界島			
1.船舶(約2時間10分、¥3,600)	8	←船舶、航空機両方を使いたいため重複	
2.航空機(約20分、¥10,700)	1		
b.徳之島			
1.船舶(約3時間20分、¥2,980)	8	←船舶、航空機両方を使いたいため重複	
2.航空機(約35分、¥14,900)	1		
c.沖永良部島			
1.船舶(約5時間40分、¥4,530)	3		
2.航空機(約40分、¥18,900)	5		
d.与論島			
1.船舶(約7時間50分、¥5,760)	2		
2.航空機(約45分、¥22,000)	6		
2～3時間の船舶移動時の過ごし方		寄せられたコメント	
1.景色を楽しみたい	8	<ul style="list-style-type: none"> ・デッキにベンチや椅子などあったら風に吹かれながら昼寝をしたい。 ・奄美群島に関する書籍、映像などがあれば効果的なインプットになると思う。 ・目的地についての映像や観光案内が聞けたら期待が高まって嬉しいです。島唄が聞きたいです。(船内で特に音楽が流れていなくて静かでした) 	
2.船内のレストランで飲食	3		
3.船内の売店で買い物	3		
4.読書や音楽を聴くなど一人で楽しみたい	3		
5.客室で昼寝など休憩	5		
6.船に乗っている地元の人と話をしたい	3		
7.操舵室などの船内施設の見学	4		
8.その他	3		
宿泊を含む船舶移動であると良いサービス		寄せられたコメント	
1.下船後の交通機関の情報提供	8	<ul style="list-style-type: none"> ・Wi-Fi、星空観賞など ・各島に停泊中にその島のお総菜やお弁当、お菓子が乗せられてくるような仕掛けがあると「ホッピング」に海路を使おうと考えると思う。 	
2.下船後の宿泊施設やレンタカー予約	5		
3.下船する島の体験やショートツアー予約	7		
4.シマ唄ライブ等の地域性の強いイベント	5		
5.レストランで郷土料理や名物料理の提供	3		
6.売店で各島の特産品や農産物販売	2		
7.奄美群島や南西諸島に関連する書籍販売	3		
8.各島の観光パンフレットやマップ配布	7		
9.その他	2		
奄美大島現地集合・解散の場合、妥当と思う大人1人分の価格			
(2泊3日分の宿泊費、昼食・夕食、体験見学費、奄美大島～徳之島のフェリー料金を含む)			
(人)	寄せられたコメント		
¥50,000～¥60,000	1	<ul style="list-style-type: none"> ・¥50,000～¥55,000の費用内訳: 宿泊(二泊)¥15,000、昼食: ¥2,500×2=¥5,000、夕食: ¥5,000×2=¥10,000円、コーヒー: ¥1,000×2=¥2,000、体験: ¥5,000(集落)¥3,000(闘牛散歩)、移動費: バス¥5,000 船¥3,000 ・¥50,000の費用内訳: 【1日目】昼、夕食(鶏飯、マグロ丼): ¥4,500、【2日目】昼食と漫談: ¥1,500、トレッキング(おやつ付): ¥1,500、夕食: ¥4,000、【3日目】集落café昼食: ¥1,500、散策(おやつ付): ¥1,200、●宿泊(2泊): ¥14,000、●バス(2日): ¥20,000/人、●フェリー(奄美～徳之島): ¥2,980 	
¥50,000～¥58,000	1		
¥50,000～¥55,000	1		
¥50,000	1		
¥49,800	1		
¥40,000	1		
¥30,000～¥40,000	1		
¥29,800	1		
参加前の期待との比較		奄美群島で興味のあるツアー内容	
1.期待したものより楽しかった	7	1.奄美群島の歴史や文化	6
2.期待どおりのものだった	1	2.奄美群島の動植物や自然	6
3.期待したものより楽しくなかった	0	3.奄美群島の郷土料理や食文化、黒糖焼酎	7
		4.奄美群島のマリンスポーツ	4
		5.奄美群島の生活文化(集落行事の参加等)体験	8
		6.奄美群島の商店街や集落のまちあるき	5
		7.奄美群島の戦跡	3
		8.その他	0
ツアーへの再来訪意向		<ul style="list-style-type: none"> ・島ロライブ、島唄ライブ ・伝統工芸(大島紬など)に関する見学、体験、夜に楽しめるメニュー(ナイトツアー、さがりばな、星空、黒糖焼酎など) 	
1.是非参加したい	6		
2.参加したい	2		
3.あまり参加したくない	0		
4.参加したくない	0		

● モニターツアーの感想や魅力向上への意見

(Q8の空路と海路の比較について)喜界島と徳之島は船舶の時間が短く、海上の風景を楽しむに手ごろな時間であるため、往路と復路で交通手段を違えて利用したいと思います。

今回の参加目的は、奄美の魅力の再発見と、島外の方々に奄美ファンになってもらうためのヒントを得ることでしたので、大変有意義な密度の濃い3日間でした。

シマグチ漫談や林道トレッキング、闘牛一家、集落カフェや散策等、出会ったいずれの方々からも素朴な温かさを感じ、その人柄が生み出されるに至った島(集落)の暮らしぶり、文化を想像することができました。その地で暮らす人々とふれあうことでその地を身近に感じることができるとあらためて思った次第。

島から島への移動手段として、船舶での屋間の2~3時間は、(天気が良ければ)海や島を眺めながらゆったりと過ごせる恰好の時間。家族や友人と一緒に旅であればなおさらだと思います。そのためにも甲板への椅子・テーブル設置が望ましいところ。

また、船出発待ちの時間を有効に使うために、せつかく海の幸が豊富にあるのですから、朝市が開かれていたり、早朝から海鮮食堂がオープンしていたら旅の楽しさが増すのではないかと思います。

登場するお店、人物、体験ネタなど、小池さんの人脈ありきの内容で個人ではなかなか体験できないことをこうしてパッケージングすることは参加者にとって満足度の高いものであると思います。個人で来ても体験しえないことを提供してこそ、ツアーの存在価値なので。

今回参加できて本当にありがとうございました。一番の目的は素材集め(画像など)と闘牛との散歩でした。闘牛の闘っている写真等は目にすることが多いですが散歩というキーワードに他にはない特別な体験というワクワク感がすごかったです。小池さんの人柄(島の方達との関係性)がこの旅を素敵なものにしてますね。

また、私事ですが船旅が苦手な島旅に行きたくとも船酔いを想像するだけで遠のいていましたが、今回は船旅によりイルカ、虹、島、空、海など幸せな時間を過ごすことができトラウマがなくなりました。鹿児島に住んでいながら島旅行ができないのがとても残念でした。奄美にプロペラ機、奄美から徳之島はフェリー、徳之島からプロペラ機のツアーは、島で体験できたことを更に魅力的なものにしていると思います。これからは鹿児島県の離島を全て観光してまわりたいと強く思います。このような機会をつくってください本当にありがとうございます。

全体を通してとても満足の行く旅でした。参加者の皆様にも恵まれとても楽しい3日間を過ごしました。急なフライト時間変更にもご対応いただけたこと感謝しています。次はゆっくりと奄美を味わう旅をしきたいと思います。

今回「食の旅」という印象があるのですがこれからツアーを組む際には、自分たちで作って食べるというのも面白いかもしれません。奄美のお母さんたちに地元の料理を習うことが出来たら楽しそうです。その他にも、夜、晴れた日には、星空観察とか鳥唄と焼酎とか、何にもしたくない日はビーチで1日ボーっとしてるとか、いろんな楽しみ方ができそうだなあというのが奄美の印象です。3日間コーディネートありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

そんなに真面目に考えてた訳やないですけど、今回参加した目的のひとつが、沖縄と奄美って何が違うのやろ?でした。

奄美について道を走りながら感じたのは、沖縄っぽくない!でした。沖縄に年間の半分ほど居るので、暖かさや海などは沖縄と変らないけど、沖縄らしい家屋(瓦屋根・コンクリート住宅)やアメリカンカルチャーを感じさせるものもなく、家屋も内地っぽく、内地を暖かくしただけなの?

徳之島に入って、地元の人に歓迎され、笑顔にふれ喋って、おいしいごはんを食べて、闘牛に、自然観察など、盛りだくさんのツアーを過ごすうちに、暖かさ・優しさを感じ、その中に島人のたくましさが見えてきました。

今回は、鳥唄を聞けなかったけど、奄美の唄者にも会ってみたい。沖縄から奄美へと続く海路に沿って、鳥唄を味わってみたい。

そういえば、奄美にも国道58号が走ってるんですね。調べてみると、沖縄から奄美から種子島へ、そして鹿児島市へ続く道です。この道を、琉球王朝、薩摩藩、日本化から、中国、アメリカも感じながら思い、考え、たまには書きながら、醸していきたい。と考える日々です。何が一番印象に残っているかと聞かれれば、それには答えにくい。あの3日間の日々がじわっと積み上げられてきて、未だに引きつづいているのが感想。

いつも一人か二人で旅するぼくには、今回のツアーメンバーも、このうえなく魅力的な人たちでした。ありがとうございます。また、奄美に行く日を楽しみにして。

空路に比べ所要時間がかかり、料金もそこまで安くない海路を使ってホッピングさせるためには、船内に目的性の高い仕掛けを作る必要があると思う。海路のメリットは、ゆっくりと過ぎ行く時間の流れやそれにより可能になる景色の移ろい、視覚や聴覚を通じて海や風が付与する規模感であり、自分の小ささや、反対に奄美群島の広さ、大きさを客体化するためのアトラクションとしての魅力は、際立っている。船＝遅い？、船＝古い？といったネガティブな印象を薄めるより、既述の長所を観光客の満足度につなげる工夫が重要であろう。

具体的には、やはり拠点整備の必要性を強く感じた。奄美大島、徳之島とも島内のコンテンツは非常に充実しており、元来の住民の温かいおもてなし気質にシマ博を通じた経験が上積みされたことで非常に競争力の高い、良質なアトラクションが数多く存在していることを再認識した。他方で、入口と出口、言い換えれば「非日常」と「日常」の境界である空港や海港が、その役割を果たしていない。特に「ここから先、海路や空路で移動中にはどのような風景が見え、次の島ではどのようなモノ、コト、ヒトに出会えるのか」といった情報提供や、島の思い出を反芻する装置としての土産品の販売機能が弱く、観光客は「ワクワクしたいけどできない、島の思い出を振り返りたいけど振り返れない」状況になっている。その結果、島と島、言い換えれば「面白いコンテンツと面白いコンテンツ」の間にある退屈な移動時間という意識を持って、乗船、搭乗することになっている。

最後にアイランド・ホッピングの可能性についてであるが、群島全域での展開ではなく、まずは大島を拠点とした「大島-徳之島」ルートの定着を目指してはどうかと感じた。奄美群島のショルダーシーズン、ローシーズンを考えると、週末+1日、または祝日を絡めた2泊3日が現実的な行程で、その中で「ホッピング」させようとする奄美の良さである「緩さ」が消えてしまう（実際アイランド・ホッピングのはしりであるカリブ海諸国やカナリア諸島も拠点島と准拠点島をつかってそのルートを定着させてから周遊を促す戦略をとってきた）。まずは「大島1泊、徳之島1泊」を定着させるための商品造成や情報発信に注力しつつ、その一方で、4日以上かけて島々を巡りながら各島で美味しいものが「乗船してくる」ような「ごっつお列車」のようなフェリー（仮称：ごっつおフェリー？）などを細々と続け、既述の2泊3日の大島+徳之島で満足した人の「次のオプション」を準備するというのが良いと思う。

前述したように「人との接点」が濃密だった徳之島の方が奄美大島より印象深い。
島毎で性格が違うとは思いますが、ブリッジ役を務められる人材の育成が肝要かと思われる。
急遽訪れた「闘牛スタジアム見学」などは当初から設定されていても良い。

このたびは参加させていただきありがとうございました。奄美は4回目、徳之島は初めてでした。いつもならパンフレットやガイドブックに載っているようなスポットをまわったりするばかりですが、今回はいつもよりちょっと違った旅となりました。その要因の1つとして、島の人とのふれあう機会が多かったことが挙げられると思います。地元の人の中から、地元の言葉で語っていただくと深い話が聞けるし、自然と耳に入ります（聞きやすい）。また、お料理やスイーツが地産地消にこだわったものだったこともうれしいものでした。徳之島では皆さん、地元でとれたものを使っているんだということをアピールしてくださいました。それを聞くのと聞かないのでは、いただく私たちの気持ちも違ってくると思います。ありがたい気持ちでいただくことができました。それからスケジュールをつめすぎずゆったりと観光することができたことも良かったです。

船の移動について、今回は波もおだやかでよかったです。普段は波もあって揺れると聞きます。徳之島についてすぐバスに乗り込んだので、周辺を確認できませんでしたが、待合所など簡易な休憩スペースはあったのでしょうか。すぐにバス移動だったとしても、移動距離は短めに、ゆっくりできるように考えてあげられたら親切だと思います。移動時間が3時間以内であれば可能な範囲なので金額的なことや旅の期待感を高める意味でも船がいいかなと考えますが、4時間を超えてしまうと限られた時間の中で移動に時間をとられてしまうのは時間をもったいないと考えますので、時間をお金で買うつもりで飛行機利用のほうがいいのかと思います。

3-3 モニターツアーから把握された課題と魅力

モニターツアーで実施したアンケート調査では、個別のツアー内容の満足度から船舶やプロペラ機といった交通手段の魅力や過ごし方、ツアー全体の満足度や妥当と思われる価格等、広範な質問を設定し、その回答から奄美群島のアイランドホッピングの課題や魅力を抽出した。

(1) ツアー内容に対する満足度と課題

①奄美大島と喜界島のモニターツアー

全体的な満足度は、参加者の8名中6名が「期待したものより楽しかった」としているが、回答を詳細に見ていくと、いくつもの課題が散見される。

食では、「鶏飯」で、ご飯を複数回食べるため、鰻のひつまぶしのような食べ方のバリエーションを求める意見や、喜界島の「島御膳」で出された料理の説明を求める意見が見られた。

奄美パークは、映像を見ることよりも展示物の説明を詳細に読むことや田中一村の作品や庭園を時間をかけて見ることを希望する意見があり、有料展示・美術館・庭園・展望台・土産物売り場と多様な機能を楽しむために、一定時間を確保して自由行動とすることが最適であることが分かる。

喜界島の遺跡見学は、興味の強弱が参加者によって異なるため、見学施設内にベンチ等が設置されていると見学に疲れた人が休憩できる。

②奄美大島と徳之島のモニターツアー

全体的な満足度は、参加者の8名中7名が「期待したものより楽しかった」としているが、回答を詳細に見ていくと、個々のプログラムに対する課題が散見される。

野生生物保護センターは、世界自然遺産登録で施設の重要性が高まるため、職員による展示物の案内の工夫や、施設外の空間の利活用、保護した動物の見学等、今後の新たな展開に期待が高まる。

食の魅力では、古仁屋の中心市街地で夕食にクロマグロを食べられる店が少なく、クロマグロと養殖に関する情報が入手しづらい点がネックになっている。徳之島の食は、2日目の昼食の弁当、夕食の飲食店、3日目の昼食の集落カフェのいずれも味やサービスの満足度が高かった。

闘牛の散歩や集落散策は、ガイド技術に負う部分大きいですが、闘牛大会とは異なる普通の闘牛との触れ合いや、何気ない集落景観の中にある物語に接することができるため、ガイドの人的な魅力と合わせたプログラム作りができると、より深く徳之島を楽しむことができる。林道トレッキングは、集落の店舗との組み合わせやコースの長さ、見どころの楽しませ方等の改善が求められる。

(2) 交通手段および交通拠点に対する満足度と課題

①奄美大島と喜界島のモニターツアー

喜界島への船舶利用は、夜間の航行になるため、天候によって快適性が大きく異なってしまいが、今回、夜間の操舵室を見学することができた点は、少人数のツアー時に特別感の高いプログラムとして実施できると大きな魅力となる。船酔いを回避する1方策としても有効とを感じるが、フェリー

の船内の過ごし方は、どのようなことができるのか？を乗船前に提示しておくことも必要になる。

喜界島～鹿児島間のプロペラ機は、島全体が見え、間近で上空から写真撮影ができるなど、観光客にとって遊覧飛行的な要素があるため、機内アナウンスや機内配布の資料をもう少し詳細で大人向けのものにすること、機内でシマ唄を流すこと等の魅力向上方策が考えられる。

名瀬港の客船ターミナルは、施設内の飲食物販機能が少なすぎることや、弁当等の食べ物の販売がないことに対する不満が見られた。喜界空港は、離島の空港らしく小さな無人駅のような佇まいが良いとする意見と施設内が狭く、土産物売り場の拡充を望む意見の両方が見られた。

②奄美大島と徳之島のモニターツアー

ツアー催行日の前後2日程度、バニラエアの到着時刻の変更で2時間程度遅れるというアクシデントが起き、現地集合解散のツアー実施において対処が困難なトラブルとなった。関西からのバニラエアの就航等、今後もLCC利用者が増加する見込みがあるため、対処方策を考える必要がある。

奄美大島(古仁屋)～徳之島間の移動は、乗船時間が日中で、大島海峡を経て徳之島まで島影を見ながら2時間少々の船旅になるため、天候が良ければ満足度の高いものになる。晴天の日中の船旅を楽しめるようデッキにベンチや小さなテーブル等の休憩施設を求める声が多かった。また、船内で次に到着する島の情報発信や案内等を求める意見もあったが、船内の自販機のつり銭切れや故障は観光利用の快適性を考える上では早急に解決すべき課題といえる。

徳之島～鹿児島間のプロペラ機の移動は、喜界島のツアー同様、プロペラ機の高度が遊覧飛行に近いと、事前に桜島や屋久島等の島々が見える観光ルートとしての情報発信や機内のアナウンスを行い、観光コースとして楽しんでもらう方策を検討しても良いと感じる。機内で配布されるパンフレットも喜界島～鹿児島間の路線と同様の改善ができると良い。

古仁屋港のターミナルは、乗船時間に合わせた物販の実施や情報発信、ベンチの数を増やす等の要望が見られ、施設運営側の都合ではなく、利用者の都合に合わせた営業時間の設定が求められる。

徳之島空港は、古仁屋港のターミナル同様、「徳之島で最後の立ち寄り場所」というクライマックス感を高める施設構成や売り場の演出、闘牛の顔出しのような楽しめる要素を求める声も見られた。

(3) ツアー料金について

①奄美大島と喜界島のモニターツアー

往復の交通費を除く現地集合解散の料金は、最高額が¥85,000、最低額は¥29,000であった。料金のうち、島内移動のバス料金の割合が大きいため、奄美市の「奄美満喫ツアー助成事業」等の運賃低減策のさらなる周知も必要である。

②奄美大島と徳之島のモニターツアー

往復の交通費を除く現地集合解散の料金は、最高額が¥60,000、最低額は¥29,800であった。このツアーでも旅費に占める島内移動のバス料金の割合が高いため、一部、路線バスを使うことや宿泊施設からの送迎を利用するなど、島内移動の交通費を低減する工夫や方策が求められる。

(4) アイランドホッピングの魅力について

①奄美大島と喜界島のモニターツアー

喜界島を丸一日楽しみたいが奄美大島からの移動の場合、2泊3日の旅程では難しくなるため、奄美大島～喜界島の船移動を1日目に設定し、喜界島の滞在時間を確保する旅程等も検討する必要がある。伊豆諸島や五島列島の高速船のように移動時間が短縮できたり、奄美大島～加計呂麻島間のチャーター船のような移動時間の自由度が高まる船舶による移動手段があると魅力や可能性も高まるため、船舶の時間帯がアイランドホッピングの要点になる。

②奄美大島と徳之島のモニターツアー

世界自然遺産登録により、徳之島の来訪者数の増加が予測されるため、島内の宿泊施設全体で、フリーWi-Fi環境の整備は急務である。また、島内の路線バスは、バス停や路線、到着時刻が分かりづらく、初めて訪れる観光客の利便性が高いとは言い難い状況にあるため、路線バスとタクシー等の二次交通の利便性向上は、事業者の意識づくりを含めて、喫緊の課題である。

徳之島3町に共通する観光の課題として、飲食と物販施設の分かりづらさが挙げられる。「3町のどこに行けば昼食と夕食を食べることができ、特産品や黒糖焼酎を購入できるのか？」を広く周知するための情報発信にも早急に取り組む必要がある。

(5) その他の留意点

奄美群島全般に言えることでもあるが、特に喜界島は、観光地化されていない優位性を島の人も理解し、良いお客様を呼び込む戦略や情報発信が必要となる。

宿泊を伴う長時間の船舶移動では、船内のWi-Fi環境や雑誌・書籍等、船内で一人で過ごす時間を楽しく充実したものにする施設や備品の整備が求められる。寄港する島々の情報は、観光パンフレットから南西諸島に関する書籍まで、情報の内容や深さ等で様々な媒体が考えられるが、書籍の購入は、旅の荷物が増えたり重くなってしまうため、船内にライブラリースペースを確保するなどして、楽しむことができると良い。

鹿児島～沖縄という国内でも唯一の長距離の生活航路であるため、立ち寄り先の島々の関係者による特産品販売や観光情報の発信は、奄美群島の魅力をそれぞれの島の人が自ら伝えることにつながるため、各島の観光推進団体等との連携体制整備や、夏季の繁忙期に限定した船内での特産品や弁当の販売を試行的に実施する等の取り組みと検証も求められる。

交通事業者と各島の観光推進団体による各種の取り組みの実施体制整備も検討課題である。

近年、観光客の消費行動が地元の人が利用するスーパー等で、特産品を中心とする土産物を購入する傾向が強まってきているため、南西諸島からの持ち出し禁止品（生のサツマイモ、柑橘類の苗等）について、交通拠点だけでなく、島内の直売所やスーパー等での周知も必要である。

4. 航空機利用者のニーズ把握アンケート調査

4-1 航空機利用者アンケート調査の目的と概要

奄美空港へのバニラエアの就航以降、奄美大島を訪れる観光客は増加傾向にあるが、奄美大島に
来島した観光客が群島内の他の島々に足を運ぶには至っていない状況にある。

本事業では、奄美群島のアイランドホッピングの意向把握を目的に、奄美空港利用者を対象に、
聞き取り形式のアンケート調査を実施し、奄美大島以外の島への来訪意向について調査を行った。

また、このアンケート調査では、奄美空港においてJALの羽田便とバニラエアの成田便の利用
者を対象に、奄美群島への来訪経験、観光における消費額等についても実態把握を試みた。

(1) 空港利用者アンケート調査概要

空港利用者アンケートは、8月(オンシーズン)と11月(オフシーズン)の金曜日と日曜日の各2
日、奄美空港セキュリティゲート内で調査を実施した。調査票の設計では、過去の類似調査(平成
26年8月～10月奄美市が実施)の調査項目を一部踏襲し比較対照が可能な形での実施とした。

●調査日：8月26日(金)、28日(日)、11月11日(金)、13日(日)

●調査精度を高めるため対面型で、合計202名のサンプルを収集

4-2 航空機利用者アンケート調査結果より

(1) 回答者の属性(8月、11月調査)

性別(全体)		JAL		Vanilla	
		8月	11月	8月	11月
1 男性	96	23	26	25	22
2 女性	101	27	24	24	26
無回答	5	2	1	1	1
合計	202	52	51	50	49

居住地(全体)		JAL		Vanilla	
		8月	11月	8月	11月
鹿児島	12	5	1	5	1
鹿児島(奄美)	20	1	7	1	11
東京	55	16	16	13	10
関東6県	90	23	23	24	20
関西2府4県	1	1	0	0	0
無回答	1	0	0	1	0
それ以外	23	6	4	6	7
合計	202	52	51	50	49

職業		JAL		Vanilla	
		8月	11月	8月	11月
1 自営業	22	6	4	6	6
2 会社員	87	27	17	17	26
3 公務員	19	6	3	6	4
4 パート・アルバイト	16	4	6	4	2
5 主婦	22	6	8	4	4
6 学生	15	2	0	12	1
7 その他	19	0	13	1	5
無回答	2	1	0	0	1
合計	202	52	51	50	49

同行者		JAL		Vanilla	
		8月	11月	8月	11月
1 なし	69	13	24	14	18
2 あり	122	37	23	33	29
1 家族	44	19	5	11	9
2 夫婦	17	2	7	5	3
3 友人	35	12	5	12	6
4 同僚	14	1	4	5	4
5 その他	12	3	2	0	7
無回答	11	2	4	3	2
合計	202	52	51	50	49

(人)

出身地(全体)	JAL		Vanilla		
	8月	11月	8月	11月	
鹿児島	17	3	4	7	3
鹿児島(奄美)	45	8	8	10	19
東京	30	8	16	4	2
関東6県	59	18	10	18	13
関西2府4県	9	5	1	2	1
無回答	2	1	0	1	0
それ以外	40	9	12	8	11
合計	202	52	51	50	49

(人)

年代(全体)	JAL		Vanilla		
	8月	11月	8月	11月	
1 10代	6	1	0	4	1
2 20代	39	11	2	17	9
3 30代	42	15	6	12	9
4 40代	39	15	6	9	9
5 50代	29	7	9	3	10
6 60代	34	1	18	5	10
7 70代	13	2	10	0	1
8 80代以上	0	0	0	0	0
合計	202	52	51	50	49

空港利用者アンケート調査は、多くの枚数を配布するものとは異なり、サンプル数は200と少数であるため、この結果だけを見て全体の利用者の傾向とすることは早計であるが、調査方法として聞き取りを行っていることから、回答の精度は高く、利用者の奄美群島のアイランドホッピングの意向把握や旅行経験、再来訪意向、消費額等の調査結果から、いくつかの特性を見ることができる。

属性に関する回答からは、以下のような回答者の意向が読み取れる。

- ・JAL、バニラエアとも何れの季節も会社員の利用が最多となっており、これには観光以外の利用者も含まれるものと推察される。
- ・利用者の居住地は、全体的にみると関東6県が東京を上回り、JAL、バニラエアとも関東6県の利用者数が拮抗している。
- ・8月は、バニラエアの学生の利用が多く年齢層も20代が最多となっているが、JALの場合30、40代の利用が多い。11月はJAL、バニラエアとも利用者の年齢層が高くなる傾向が見られ、特にJALでは60代が最多で、バニラエアでも50、60代が最多となっている。
- ・同行者については、「あり」とした回答者が圧倒的に多く、内訳は、家族が最多で、次いで友人となっており、この傾向は、JAL、バニラエアとも8月が顕著になっている。
- ・出身地を見ると、関東6県が最多であるが、奄美出身者の利用も多く、11月のバニラエアの利用者に出身者が多いことが分かる。
- ・年齢層の分布は、8月が20～40代が多く、11月は50～70代が多くなっている。

(2) 奄美群島のアイランドホッピングについて(8月、11月調査)

(人)

奄美大島以外の 来島経験(全体)	JAL		Vanilla		
	8月	11月	8月	11月	
1 あり	74	13	21	18	22
喜界島	25	5	9	5	6
徳之島	45	8	12	10	15
沖永良部島	29	5	9	4	11
与論島	36	9	13	4	10
島の選択なし	6	0	3	0	3
2 なし	126	38	30	32	26
無回答	2	1	0	0	1
合計	202	52	51	50	49

(人)

奄美大島以外の 来島希望(全体)	JAL		Vanilla		
	8月	11月	8月	11月	
1 行ってみたい	184	50	44	46	44
喜界島	12	3	5	1	3
徳之島	7	2	4	0	1
沖永良部島	11	2	4	4	1
与論島	13	2	6	3	2
島の選択なし	73	0	34	0	39
2 行きたくない	8	0	4	0	4
無回答	10	2	3	4	1
合計	202	52	51	50	49

(人)

奄美大島以外の島への移動時の交通手段 (全体)	船舶		航空機	
	8月	11月	8月	11月
	a喜界島	57	47	45
b徳之島	53	44	49	49
c沖永良部島	32	33	67	60
d与論島	26	30	73	63
e無回答	0	7	0	7
船舶を希望	8月		11月	
	JAL	Vanilla	JAL	Vanilla
	a喜界島	27	30	22
b徳之島	24	29	20	24
c沖永良部島	12	20	13	20
d与論島	9	17	11	19
e無回答	0	0	6	1
航空機を希望	8月		11月	
	JAL	Vanilla	JAL	Vanilla
	a喜界島	25	20	23
b徳之島	28	21	25	24
c沖永良部島	40	27	32	28
d与論島	43	30	34	29
e無回答	0	0	6	1

(人)

奄美大島以外の島の 入手したい情報	8月	11月	合計
1 観光施設	61	57	118
2 宿泊施設	59	48	107
3 飲食店	66	50	116
4 体験プログラム	35	20	55
5 まち歩きマップ	45	31	76
6 各島交通手段(一元的)	26	15	41
7 各島内交通手段	46	30	76
8 その他	0	5	5
無回答	2	7	9

FA(8月)

- ・群島に行くならば、それらの情報は家(地元)で収集する。
- ・大島で情報を収集するという想定はあまりできない。

FA(11月)

- ・興味なし
- ・知らない
- ・情報が無いほうがいい
- ・特に興味がない
- ・インターネット
- ・借家
- ・おいしいもの
- ・ダイビングポイント
- ・歴史を勉強したい

奄美群島のアイランドホッピングに関する回答からは、以下のような回答者の意向が読み取れる。

- ・奄美大島以外の島への来島経験は、全回答者(202名)のうち126名(62.3%)が「なし」であった。その傾向は、8月の回答者に強くみられ、8月のJAL利用者では「奄美大島以外の島への来島経験なし」とした回答者が38名で最多となっている。
- ・奄美大島以外の島への来島経験が「あり」とした回答者は74名(全体の36.6%)で、徳之島の来島経験者が45名(来島経験ありの60.8%)と最多で、次いで与論島の来島経験者36名(来島経験ありの48.6%)となっている。
- ・奄美大島以外の島への来訪希望は、184名(全体の91.0%)が「行ってみたい」と回答しており、大多数の回答者が奄美大島以外の島へも興味を持っていることが分かる。
- ・奄美大島以外の島への来訪希望で、「行ってみたい」と回答した184名のうち、特定の島を挙げていない人が73名おり、「行ってみたい」と回答した人の約40%となっている。この結果からは、特定の島を想定しているのではないため、それぞれの島への移動時間や費用、やってみたい事や見どころといった広範な観光情報を提供することで、奄美大島以外の島への来訪者の喚起につながる可能性もある。
- ・奄美大島から他の島への移動手段については、JAL、バニラエアの利用者とも8月の調査では、喜界島と徳之島への移動で、「船舶」が「航空機」を上回っており、11月の調査でも拮抗する結果となった。沖永良部島、与論島への移動は、8、11月とも回答者の過半数が「航空機」を選択し、移動手段として「船舶」を選ぶ際の要点の1つが移動距離と移動時間であることがうかがえる。

・利用エアライン別の回答では、奄美大島から沖永良部島、与論島への移動で「航空機」を選択する傾向が特に強かったのは、8月のJAL利用者であり、次いで11月のJAL利用者となっているが、バニラエア利用者については、8、11月とも「船舶」を選択した回答者が一定数存在している。なお、奄美大島から他の島への移動手段と移動時間、正規料金については、以下のとおりである。

行き先の島 交通手段	a.喜界島	b.徳之島	c.沖永良部島	d.与論島
船舶 H28年5月片道運賃	・約2時間10分 ・¥3,600	・約3時間20分 ・¥2,980	・約5時間40分 ・¥4,530	・約7時間50分 ・¥5,760
航空機 片道普通運賃	・約20分 ・¥10,700	・約35分 ・¥14,900	・約40分 ・¥18,900	・約45分 ・¥22,000

・奄美大島以外の島の入手したい情報は、「観光施設」、「飲食店」、「宿泊施設」が、他の項目を倍以上上回る結果となった。また、「まち歩きマップ」、「各島内交通手段」といった項目についても比較的多数の回答者が選択しており、観光客として利用したり立寄ったりする施設情報とともに、観光客が島内を自由に移動するための情報が求められていることが分かる。

(3) 旅行内容について (8月、11月調査)

(人)

奄美大島への 来訪経験(全体)		JAL		Vanilla	
		8月	11月	8月	11月
1 なし	85	28	16	20	21
2 あり	83	20	27	24	12
過去1回	7	2	4	0	1
過去2回	11	3	3	4	1
過去3回	8	0	5	3	
過去4回	4	0	3	0	1
過去5回以上	43	10	12	14	7
回数無回答	10	5	0	3	2
奄美出身・在住	28	1	7	5	15
無回答	6	3	1	1	1
合計	202	52	51	50	49

(人)

奄美群島への 来訪目的		JAL		Vanilla	
		8月	11月	8月	11月
1 観光	114	31	26	31	26
2 仕事	29	7	14	3	5
3 帰省	38	9	7	14	8
4 その他	12	3	2	1	6
無回答	9	2	2	1	4
合計	202	52	51	50	49

(人)

今回の旅費総額 (全体)		JAL		Vanilla	
		8月	11月	8月	11月
1 5万円未満	42	3	11	12	16
2 5万～10万円未満	94	23	25	22	24
3 10万～15万円未満	38	15	10	10	3
4 15万円～	23	11	5	5	2
無回答	5	0	0	1	4
合計	202	52	51	50	49

(人)

今回の宿泊数(全体)		JAL		Vanilla	
		8月	11月	8月	11月
1 1泊	13	6	3	1	3
2 2泊	69	15	25	11	18
3 3泊	56	15	10	17	14
4 4泊以上	58	14	11	20	13
0泊(乗継なので)	1	1	0	0	0
無回答	5	1	2	1	1
合計	202	52	51	50	49

(人)

再来訪意向 (全体)		JAL		Vanilla	
		8月	11月	8月	11月
1 是非また来たい	112	31	25	34	22
2 また来たい	48	13	15	8	12
3 機会があればまた来たい	11	4	2	2	3
4 来たくない	1	0	1	0	0
5 移住したい	3	0	2	1	0
無回答	27	4	6	5	12
合計	202	52	51	50	49

FA(11月)

- ・どこ行っても一緒なので行きたくない
- ・奄美大島以外は特に興味がない

(人)

今回の飲食代総額 (全体)		JAL		Vanilla	
		8月	11月	8月	11月
1 5千円未満	24	3	9	5	7
2 5千～1万円未満	48	9	15	14	10
3 1万～3万円未満	87	29	18	19	21
4 3万円～	33	11	6	10	6
無回答	10	0	3	2	5
合計	202	52	51	50	49

(人)

今回の土産代総額 (全体)		JAL		Vanilla	
		8月	11月	8月	11月
1 5千円未満	68	14	18	17	19
2 5千～1万円未満	61	19	10	18	14
3 1万～3万円未満	48	14	16	10	8
4 3万円～	14	4	4	3	3
無回答	11	1	3	2	5
合計	202	52	51	50	49

旅行内容に関する回答からは、以下のような回答者の意向が読み取れる。

- ・奄美大島への来島経験は、全回答者(202名)のうち85名(42.0%)が「なし」であったが、「あり」とした回答者も83名(41.0%)おり、拮抗している。過去の来島回数では、5回以上とした回答者が48名おり、来島経験者の過半数となっている。
- ・出身者や居住者の利用も毎回の調査で一定数確認されているが、11月のバニラエア利用者は出身者や居住者の利用が多かった。
- ・宿泊数は、2泊が最多の69名(全体の34.1%)、次いで4泊以上が58名(全体の28.7%)、3泊が56名(全体の27.7%)となっており、8月のバニラエア利用者のうち20名は4泊以上であった。
- ・来訪目的は、何れの調査でも「観光」が最多となっているが、11月のJAL利用者では「仕事」が14名(11月のJAL利用の回答者の27.4%)、8月のバニラエア利用者では「帰省」が14名(8月のバニラエア利用の回答者の28.0%)となっており、季節による利用目的の変化がうかがえる。
- ・奄美大島への再来訪意向は、「是非また来たい」が112名(全体の55.4%)、「また来たい」が48名(全体の23.7%)であり、再来訪意向のある回答者は約80%であった。
- ・旅行全体の消費額は、「5万～10万円未満」が最多の94名(全体の46.5%)、「5万円未満」が42名(全体の20.7%)となっている。「5万円未満」が最多だったのは、11月のバニラエア利用者で、16名(11月のバニラエア利用の回答者の32.6%)であった。消費額の高い回答者は、8月のJAL利用者の15名(8月のJAL利用の回答者の28.8%)が「10万～15万円未満」、「15万円～」は、同じく8月のJAL利用者の11名(8月のJAL利用の回答者の21.1%)は「15万円～」であった。
- ・旅行の飲食代総額は、「1万～3万円未満」が87名(全体の43.0%)と最多で、中でも8月のJAL利用者は、29名おり33.3%を占めている。次いで、「5千～1万円未満」が48名(23.7%)となっている。「3万円～」とした消費額の高い回答者は、8月のJAL利用者が11名、バニラエア利用者が10名で、利用エアラインによる差は見られない。
- ・旅行の土産代総額は、「5千円未満」が68名(全体の33.6%)と最多であった。選択肢の金額が高くなるにつれ、回答者も減る傾向にあり、相対的に土産物に消費をしない傾向がみられる。
- ・旅行消費額の調査から、旅費は抑えても観光地の飲食には一定額を使い、土産物などは購入を控えるといった、自分のために現地で支出するという観光客の消費動向がうかがえる結果となった。

(4) 旅行経験について(8月、11月調査)

(人)

年間の旅行頻度 (全体)		JAL		Vanilla	
		8月	11月	8月	11月
1 年1~2回	80	25	16	19	20
2 半年に1~2回	55	13	11	20	11
3 2~3か月に1~2回	31	10	9	3	9
4 1か月に1~2回	21	3	7	5	6
5 上記以外	14	1	8	2	3
無回答	1	0	0	1	0
合計	202	52	51	50	49

国内で船舶を 使った旅行経験		JAL		Vanilla	
		8月	11月	8月	11月
1 あり	111	22	40	18	31
2 なし	83	27	10	31	15
無回答	8	3	1	1	3
合計	202	52	51	50	49

(人)

国内離島の旅行経験 (全体)		JAL		Vanilla	
		8月	11月	8月	11月
1 あり	119	39	28	32	20
2 なし	80	13	22	17	28
無回答	3	0	1	1	1
合計	202	52	51	50	49

FA(訪れた離島)

北海道	10	沖ノ島	1
利尻島	1	大島(長崎)	1
礼文島	2	五島列島	2
佐渡島	10	天草	1
猿島	1	屋久島	6
伊豆大島	6	種子島	2
神津島	3	宝島	1
三宅島	1	沖縄	22
八丈島	8	伊良部島	1
初島	2	宮古島	3
小笠原諸島	3	石垣島	12
三重	1	竹富島	3
小豆島	1	小浜島	3
宮島	1	慶良間諸島	1
瀬戸内海の島々	2	西表島	7
隠岐	1	波照間島	1
対馬	1	離島全般	1

旅行経験に関する回答からは、以下のような回答者の意向が読み取れる。

- ・旅行頻度は、「年1~2回」が最多の80名(全体の39.6%)、次いで「半年に1~2回」が55名(全体の27.2%)であった。旅行頻度の高い回答者は、JAL利用者がやや多くなっている。
- ・国内で船舶を使った旅行経験は、「あり」が111名(全体の54.9%)と過半数を占め、特に、8月のJAL利用の回答者51名中40名が「あり」と回答している。11月のバニラエア利用者においても49名の回答者中31名が「あり」としている。
- ・国内で船舶を使った旅行経験について、8月と11月の回答を比較すると、JAL、バニラエア何れも8月は、国内で船舶を使った旅行経験がない回答者が多く、11月は経験のある回答者が多い。
- ・国内の離島旅行の経験は、「あり」が119名(全体の58.9%)であり、何れの調査においても国内の離島旅行の経験のある回答者が、経験のない回答者を上回る結果となっている。
- ・訪れた離島のFAを見ると、沖縄への旅行経験者が22名、次いで石垣島の12名だが、北海道の離島や佐渡島など東日本の島を訪れている人も10名ずつ見られる。
- ・僅かではあるが、沖ノ島(福岡県宗像市)、宝島(鹿児島県十島村)、波照間島(沖縄県竹富町)といった特徴的で一般の観光地とは異なる島への来島経験のある回答者も見られた。

(5) 自由記述のコメントから（8月、11月調査）

【課題に関するコメント】

- ・ 奄美大島内各地の詳しい天気予報を知りたい。
- ・ 神奈川で奄美の情報を知るのが難しかった（本などが少ない）
- ・ 飲食店を探すのにちょっと苦労した。
- ・ カケロマ島に行きたかったが、宿泊情報が取れなかった。宿泊情報、飲食情報などをもっとHPなどで載せてほしい！
- ・ 施設の老朽化が多い。
- ・ ホテル施設（プール）の掃除がなされてなかった。それがなかったら満点！
- ・ 宿泊施設の周りに飲食店が少ない
- ・ 松枯れの木が年々増えていて心配です。
- ・ 英語を話せる人（ホテル、飲食店にて）が少ないので困りました。

【魅力に関するコメント】

- ・ 奄美大島から各島へ行く場合は、船でないと各島の良さがわからないと思う。
- ・ 奄美は沖縄の離島と比べて、観光地化されていない雰囲気良かった。子連れで気兼ねなく来るのにとってもよいと思った。
- ・ 沖縄に比べて奄美は以外に広いし海はとてもきれい。毎年沖縄に行くのだが、今年は友達に薦められて奄美に来た。
- ・ 沖縄に比べて、ホテル等で完結しないことが、いろいろ見れたり体験できることにつながると感じ、良いと思った。
- ・ のんびりで監視されていない感じがする。自由に海で泳げる。
- ・ 海がキレイ、食事がおいしい、また来たい。

空港利用者アンケート調査の自由記述で示された課題は、「情報発信の不足」、「施設のメンテナンス」、「環境整備」、「外国語対応」に分類でき、奄美群島のアイランドホッピングの推進とともに、群島全体の観光振興を考えていくうえで早急な整備や改善が求められるものといえる。

一方の魅力に関する記述では、沖縄との比較にもとづく意見が多く、今後、奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島の世界自然遺産へ登録された場合、さらに沖縄との比較をする観光客の増加が予測される。このため、「観光地化されていない雰囲気」、「海はとてもきれい」、「ホテル等で完結しないことが、いろいろ見れたり体験できることにつながる」、「のんびりで監視されていない感じ」といった沖縄との比較で評価されている要素を損なわず、盤石なものとしていく観光振興方策や関係者の意識作りを進める必要がある。

5. 奄美群島アイランドホッピング検討会

5-1 検討会の実施目的と開催概要

奄美群島における生活航路を活用した観光魅力を向上させるために、快適で効率良い奄美群島のアイランドホッピングの実現を目的として、船舶、航空機、鉄道や島内の交通事業者と観光関係者の意思疎通と課題の共通理解の促進を視野に「奄美群島アイランドホッピング検討会」を開催した。

また、本事業および本検討会では、以下の各項目を目指す成果とした。

1. 改善点や実施目標の整理と課題の一覧化および着手時期の検討
2. 調査等から抽出された課題の明確化
3. 関係者が一堂に会する体制の整備

(1) 検討会の開催概要

検討会は全3回の開催とし、奄美群島に就航している船舶、航空会社に加え、島内の交通事業者、観光推進団体、島外の鉄道系旅行事業者と沖縄の観光推進団体関係者および行政機関の観光関連部署の担当者を委員やオブザーバーとして検討会を構成した。

第2回以降は、本事業で実施した各種の調査や実証事業の結果をもとに議論を進め、意見交換はテーマを設け、テーマに沿った有識者をゲストスピーカーとして島外より招へいた。

なお、奄美群島内の12市町村の観光担当課に対する検討会の進捗や成果報告については、各種会議等で周知するものとした。

全3回の検討会開催概要の詳細を以下に示す。

第1回	<p>■開催日：平成28年9月14日（水）15:00～17:00／会場：大島支庁4階大会議室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係者の顔合わせと事業の概要説明 ・奄美群島のアイランドホッピングの現状と課題 ・奄美群島のアイランドホッピングの望ましいあり方と魅力向上について議論
第2回	<p>■開催日：平成28年11月15日（火）15:30～17:30／会場：奄美会館2階会議室</p> <p>■テーマ「モニターツアーで感じた課題と魅力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種調査結果の説明 ・ゲストスピーカー(実証事業の参加者)の講演 ・調査結果と講演を踏まえた意見交換
第3回	<p>■開催日：平成29年2月3日（金）15:30～17:30／会場：大島支庁4階大会議室</p> <p>■テーマ「奄美群島のアイランドホッピングの課題と魅力（旅行会社の視点から）」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種調査結果の説明 ・ゲストスピーカー(実証事業を催行した旅行代理店関係者)の講演 ・講演を踏まえた意見交換と今後へ向けた意見

5-2 検討会から抽出された課題

奄美群島のアイランドホッピング検討会では、以下の3項目をもとに委員の意見を抽出し、議論と検討を進めるものとした。

1. 奄美群島の生活航路と航空機および鉄道を使ったアイランドホッピングで目指すものは？
2. 奄美群島のアイランドホッピングの「売り」とは？
3. 奄美群島のアイランドホッピングの将来的な展望は？

(1) 検討会からの主要な課題

①アイランドホッピングの定義

「奄美群島のアイランドホッピングとは？」といった根源的な課題について、検討会全体を通して委員からの意見を収集し、検討を進めるものとした。広義のアイランドホッピングの定義は、「island hopping：島嶼地域において複数の島々を訪問する周遊性の高い観光の形態をいう。代表的なものとしてはカリブ海クルーズやエーゲ海クルーズがある。1か所の滞在は短い但し全体の旅行期間が長くなるのが特徴で、客船の滞在性や移動の快適性も魅力を形成する大きな要因となる。」（観光学辞典[同文館出版株式会社/平成9年12月/編著：長谷政弘]）である。

②交通関係の課題

船舶の奄美大島名瀬港の入港時刻とその後の観光の快適性は、実証事業を通じて確認し、現状の施設（ホテル、飲食等）の利活用を促進しながら観光客に快適な過ごした方を発信する方策を検討するとともに、移動手段そのものの魅力や船から見える景色等の移動中の楽しみをいかに発信するのが要点であり、奄美群島のアイランドホッピング全体を通じた大きな課題の1つである。

レンタカー事業者にとって名瀬の駐車場の確保が困難であることや、名瀬港を出発するバス路線が市街地を経由することの広い周知、一定期間内の船舶や航空機の乗り放題チケット等の可能性を探ること等が提示された。

世界自然遺産登録にともなうエコツアー、奄美群島のトレイルルート整備では、山中や集落への往復のアクセス方法も重要になり、特にレンタカー利用の個人旅行客の利便性の向上は、奄美群島全体にとって大きな課題の1つと位置づけられるため、レンタカー事業者や代行業者等との連携による島内移動の利便性向上は喫緊の課題と位置づけられる。

③旅行、観光の魅力向上の課題

群島の魅力（手つかずの自然、昭和が残っている、島の人たちとのふれあいが暖かくてのんびりしている等）を認識し、行ってみたいと思わせるにはどうしたら良いか、旅程を作りやすくするにはどうしたら良いか、実際行って楽しいと思わせるにはどうしたら良いか等について、実証事業の成果を旅行商品の造成に結びつけていくことが求められる。また、他地域の類似事例や生活航路を使った観光について、情報収集や現地視察等を行うことも検討すべきである。

④情報発信の課題

見どころ食べどころ、交通手段、旅程を組む際の時刻表や運賃の情報、全国からのアクセス方法の提示、交通手段を組み合わせるとどんな観光が可能なのか、マスツアー以外の旅行形態で奄美群島の魅力が伝わる観光の検討と情報発信が重要であり、観光客、旅行代理店、マスコミ等の想定される対象別に情報の内容と発信の方策、実施主体の検討も必要になる。また、食べ物の魅力は、実証事業でも確認されており、今後の情報発信の主要な柱の1つと考えられる。

異なる個性を持つ奄美の島を巡る旅は人々の非日常性を刺激するため、奄美の持つ個性を島旅の中で上手くプロモーションすることやゆっくりした時間を楽しむ・素晴らしい星空を見る・サマーシーズンのフェリー移動といった個々の魅力をシーズンごとに発信するための基盤整備も必要になる。奄美群島のアイランドホッピングのプロモーション方策は今後の検討課題である。

特に、フェリーの中の充実度を図る必要がある、パンフレット等でフェリー船内の快適な過ごし方を入れることが課題解決の第1歩になる。

⑤世界自然遺産登録の課題

世界自然遺産登録の効果を群島全体にいきわたらせ、利用者の増加による路線確保も重要である。奄美群島のアイランドホッピングにおいても、世界自然遺産登録に起因する観光客の増加から減少への変化を視野に入れた対応策を検討することが必要である。

⑥関係者間の意思疎通や合意形成の課題

交通事業者が参加し議論する観光関連の会議がこれまであまりなかったため、今後も本検討会の関係者が同じ方向を向き、一体的に取り組むことが大切である。交通事業者を核とする観光推進団体や各自治体等を交えた連携体制整備を推進し、船舶や航空機利用の活性化を目的とする議論の場づくり、連携体制にもとづく関係者間の定期的な情報交換や継続的な合意形成を推進する必要がある。世界自然遺産登録や船舶利用に関しては、共通項が多い沖縄県との連携が必要であることが分かる。

観光関係者が隣島を知らずに、異なる島で同じものをアピールしている場合もあり、島々の違いを感じてもらうために、関係者間の情報交換も必要である。

⑦その他の利便性や快適性、質的向上の課題

群島内の各島や各地域が可能な受け入れ態勢や滞在のスタイル等、個別の観光のあり方に沿った快適性や情報発信を考えていくことが必要である。その際に、各島や各地域ごとの適正な受け入れキャパシティの把握も重要になってくる。考え方として、旅行者は色々な島を巡るとき、宿泊すべきか、日帰りか良いのかが分からないため、拠点・ポイントと、見る・体験するなどのルート提案ができ、島間の動きがあれば、各島への滞在は短くても奄美エリアに滞在する時間は長くなる。島単体でなく、エリアで観光を楽しみ滞在時間を延ばす。というものがある。

(3) ゲストスピーカーの講演より抽出された課題と魅力

検討会では、実証事業に関わった島外の関係者をゲストスピーカーとして招へいし、奄美群島のアイランドホッピングの課題と魅力に関する講演を行った。

ゲストスピーカーの講演より抽出された課題と魅力について以下に示す。

①第2回検討会ゲストスピーカー(NPO 法人 長崎コンプラドール 副理事長 川良真理氏)の講演より

- ・フェリー乗船時は、鹿児島中央駅から埠頭行きのバスで一直線に動くのではなく、少し寄り道をするのが楽しい。
- ・乗船前に食べ物を買っておいたほうが良いことは、事前にお客様に伝えておくべき情報。鹿児島で美味しいものを買って乗船するとお客様の動きも変わってくる。
- ・船内にシャワーはあるが、乗船前に天文館と埠頭の間の古い銭湯に入って乗船するプランも良い。
- ・天文館は観光客にとっても不親切で、どこからどう移動するかかのインフォメーションがあまり無いもう少し観光客が分かるサインがあったら良い。
- ・埠頭も南と北が離れており、間違えると大変だし、ドルフィンポートから埠頭まで歩くと、大きな荷物がある場合、足元がボコボコして歩く道ではなかった。
- ・乗船直後、錦江湾を進んでいく時、デッキにいと桜島が端から端まで見られることに非常に感動した。桜島は、海上からは綺麗に見えて良かった。
- ・生活航路なのでいつも乗る人達と、初めて乗る人達に2極化している。いつも乗っている人は、乗船後すぐテーブルと椅子を確保し、そのスペースが快適だとよく知っているが、初めて乗る人達は、船内に何があるか良く分からない。食堂は早く閉まるが閉まっても使えるとか、波が静かな錦江湾を通過中にシャワーを浴びておくのが良いとか、**事前のインフォメーションは大事。**
- ・乗船時、非常に長いタラップを上る際、重いキャリーバッグの女性はかなり辛いので、荷物は小さくまとめて、リュックの方が楽であると教えてあげたほうが良い。
- ・アイランドホッピングに慣れてない人は、船酔いに足がすくむのではないかと思う。初めての人にこれほど怖いものはないので、**船酔い対策は非常に重要。まず寝る、酒を飲む、楽しむ(意識を違う方向に持っていく)、風に当たる、デッキに出て水しぶきを感じる、船酔い止めの薬を事前に飲んでおく。意外に効くのが飴を舐めることで、気圧の問題で常に唾を飲み込んでいると、割と船酔いしない。耳と手首のツボを押すのもとても有効。**
- ・**船酔い対策のキーワードは、「楽しむ」ということ。**船内の過ごし方を楽しませる中に、雑誌や本を置いておくとか、島ごとの個性が分かるコーナーを作っておく、島唄ライブ等が考えられるが、生活航路としての利用者と観光客の2極化の中で、ライブや映画上映をすると、煩がる人もいるので、お楽しみの部屋を一つ作っておいたほうが良い。
- ・少し長期のカジュアルな船では、映画上映や小さなコンサート、くじ引き大会を行う部屋があり、眠って過ごしたい人たちの邪魔にはならず、2極化を完全に分けるのも一つの方法。
- ・島ごとのインフォメーションは、奄美パークの展示物に近いワンコーナーがあると、島の個性が分かる。

- ・空港で荷物が出てくるのが遅く、待ち時間ロスが厳しい。荷物を預けず手荷物にする方が良いことも課題。
- ・空港通りのバスを利用した際、乗客が一日乗車券を空港内のカウンターまで買いに行っていた。島のバスは料金の高いものも多く、バスの1日乗車券、2日乗車券は、非常に便利なので、乗車券の購入はもう少し分かりやすくした方が良い。カウンター到着口の目の前にあるので、通り過ぎてしまう。カウンターの場所の問題でもある。
- ・船酔いがきつい人は奄美大島まで飛行機で行き、そこから喜界島へ向かう2時間程度の船旅等、2～3時間で行ける島まで船を利用するプランも考えられる。
- ・違う島を回るときのネタの住み分けは難しいが、お土産の黒糖は奄美大島か喜界島かどう違うのか、お酒の違い、自然の違いと堪能の仕方、ハブがいる島いない島、名物料理の違い、海流の違いで獲れる魚が違うとか、奄美ではこれ、徳之島ではこれ、喜界島ではこれ、というように違いを明確にしていくと島を回る楽しさが増す。
- ・船と飛行機とバスも含めて色々使えるスルーパスは非常に良いアイデア。JRの青春18切符のようなパスで、色々な乗り物に乗る楽しさは、自分も楽しく旅の名人になった気分になれる。
- ・日本ではスルーパスに船が入っていないので、船が足されると面白がる人が出てくる。それをやる際は、上陸してからの動きをスムーズにつなげる必要がある。
- ・船旅は、色々なルートやコースを考えられ、ポテンシャルが高い。

②第3回検討会ゲストスピーカー(株式会社風カルチャークラブ 社長 嶋田京一氏)の講演より

- ・アイランドホッピングという言葉自体はあるが、その定義を固めると縛られてしまうので、定義を皆で共有するのが良い。
- ・アイランドホッピングという言葉の使い方は色々あり、奄美群島でやっていくのであれば、アイランドホッピングという言葉を他に使う場所や地域も巻き込み、広めていくやり方がある。
- ・奄美群島だけのオリジナルなアイランドホッピングは、これだというものを決め、定義づけをし、他とは違うアイランドホッピングでやっていけば良い。奄美らしいネーミングをつけ、元々のものがあって、さらに奄美だけのオリジナルのホッピングがあるというやり方もある。
- ・効率の問題や時間がかかってしまったり、色々なアクティビティの費用がかかり、天気はコントロールが効かないため、どう良い方向に転化できるかの天候リスクもある。
- ・フェリーは魅力だが船酔いがリスク。船内設備は、自販機が故障していて、せっかくお金を使いたいのに使えない状態は、非常に勿体無い。
- ・乗船中は、船内を移動して、景色でも何でも面白いものを探すので、そこに当てはまるものがあれば良い空間だと思う。
- ・島はタクシー利用が難しい。費用の問題があり、離れた所から手軽に呼ぶことが出来ない。
- ・宿は、工事関係者等が利用する宿に泊まってしまうと、女性客の場合、クレームになってしまうので、ミスマッチをしないよう宿の使い分けが大事。
- ・食事は、朝早くから営業している店が少ない。旅行で来る人は、結構朝早く起きて動くので、

朝早く旅行者が寄って、ゆっくり出来る店があると良い。

- ・夜は飲み屋以外で、女性が一人で安心して入って食事ができる店はあるのかも知れないが、そういうニーズもある。
- ・基本的に、誰に何を売るか、誰を対象に考えなければいけないかが大事で、観光や旅行は本当に色々なお客様がいる。
- ・一人では出来ないが人とは違うことをやりたいニッチ部分がマス化、コモディティー化(日常化)すると、皆があまりやらなかった珍しい事も多くの人がやりはじめて目新しくなくなってしまう。今は色々な情報があり、色々なことに興味を持ち、総マニア化している状況で旅行商品の提供を考えなければいけない。
- ・旅行先として島に来てもらう時に必要なことは、乗り物を利用する場合のお得感が欲しい。混まずに空いている所に乗る方法、安い運賃で乗れる情報、空いている時期、安価になる時期等、ソフトの充実が大切。
- ・ハードは、快適な乗り物の利便性、車や飛行機の課題なのかも知れない。
- ・自分の求めているものを見ることができるのかというニーズのマッチングの情報、思っていたものと違わないこと、そのような情報提供が大切。
- ・休憩施設も、旅行で色々動く合間に何が出来るか来て初めて気付くことなので、ここでこの施設を入れたほうが良いという情報が必要。休憩施設を提供、用意することもハード面の課題。
- ・食べ物は、美味しいものを地元の人からクチコミで聞くことも楽しいが、一般家庭でなければ食べられないものは、家庭料理を出すお店が受け皿にないと味わえない。
- ・買い物も、何か買いたい気持ちを皆どこかで持っているので、お金を出すストーリー、欲しいと思わせる情報を与えておくことも大事で、話を聞いて買いたい時に店がある利便性が必要。買いたい時に買えなければ意味がない。
- ・宿泊から生まれる、民宿等の触れ合いや宿泊者同士の情報交換等と泊まる所の快適さも大事。
- ・困った時のフォローアップがあるのかという情報も事前に分かると良い。
- ・アイランドホッピングをやったことがない人に面白さを伝えることが非常に難しい。ホッピングという行為をどう説明できるか、体験していないものをイメージさせ、知らないことを想像させる必要があるので難しい。
- ・ホッピングとしての動線が見えるネーミングは非常に大事。プレミアム化してアイランドホッピングという行為が実は特別感があることを示さなければ、なかなか取り入れてもらえない。
- ・魅力を考えて際、ホッピングとしていくつか見て回るため、異なる景観や文化の詰め合わせのように、美味しいものがギュッと詰まっているイメージ。
- ・島同士は近いが海で物理的に離れていて、非日常感が溢れている。小型機は絶妙な高度で飛ぶので景色が非常に良いのもワクワク感が出る。移動時にもたらされる交流機会や、必然的に生活路線を使う時、島の人や土地の人に触れる機会が出てくるのが魅力。

(4) 主要な課題の種類別の解決策と実施時期

検討会で抽出された課題の種類と解決策および実施時期のまとめは以下のとおりである。

● 議論の前段階の課題	今年度 事業	短期	中期	長期
・現状の把握のための意見収集調査(アンケート等)	●			
・アイランドホッピングの定義	●			
・交流人口の拡大、地域を振興		●	●	●
1) 交通手段に関するもの	今年度 事業	短期	中期	長期
・喜界航路の充実したサービス提供(モニターツアーアンケート等を元に)		●		
・モニターツアーを踏まえた生活航路を使った新しい観光のスタイル提示		●		
・移動手段そのものの魅力や移動中の楽しみの発信		●		
・移動時の待ち時間のコンテンツを増やす		●		
・船中でも楽しめて移動すること自体を楽しめる方策の検討		●		
・レンタカー利用者と事業者への調査によるニーズ把握		●		
・船からの乗り継ぎの路線バス(古仁屋行)の名瀬のまちなか経路表示		●		
・乗り継ぎの待ち時間の過ごし方提案		●		
・乗り継ぎポイント別の快適性、利便性を改善、強化		●	●	
・交通拠点の快適性の向上、飲食物販機能の充実と強化		●	●	
・オフシーズンの群島内乗り放題サービスの検討			●	●
・船舶とレンタカー利用者の利便性向上(港の共用駐車場)			●	●
・関係者を交え軽微なものの改善策を検討、観光動向を踏まえ中長期的に実施		●	●	●
2) 島や島旅の魅力向上に関するもの	今年度 事業	短期	中期	長期
・交通手段を組み合わせた旅程づくりと要点の把握	●	●		
・島コーディネーターや旅行者の目線を取り入れたメニューづくり	●	●	●	
・他のフェリー等事例の収集と具体的な改善策を関係者で検討		●	●	
・フェリーの清潔感の向上、明るい雰囲気づくり		●	●	
・トレイルロード整備と連携した島内交通の利便性向上		●	●	
・鹿児島島から乗船後のフェリー内の楽しみ方について関係者で検討		●	●	●
3) 情報発信に関するもの	今年度 事業	短期	中期	長期
・交通手段を組み合わせ、魅力が伝わる観光の検討と情報発信		●	●	
・対象別の情報発信の検討		●	●	
・露出したメディアの二次利用の検討		●		
・乗り場の案内や掲示板等の整備、サインの整備			●	●
・奄美群島のアイランドホッピングのプロモーション方策と実施主体を検討		●	●	●
・フェリーの船旅の楽しみ方や快適性を高めるアイデアの発信方法の検討		●		
4) 世界自然遺産登録に関するもの	今年度 事業	短期	中期	長期
・登録の進捗状況とあわせたアイランドホッピング方策の検討			●	●
5) 関係者間の意思疎通や合意形成に関するもの	今年度 事業	短期	中期	長期
・交通事業者を核とする関係者を交えた連携体制整備		●		
・連携体制にもとづく定期的な情報交換、継続的な合意形成		●	●	●
・鹿児島県、沖縄県の関係部署を中心に連携方策を検討		●	●	
6) その他の利便性や快適性、質的向上に関するもの	今年度 事業	短期	中期	長期
・地域の意向を踏まえた観光やルート整備と情報発信		●		
・奄美エリア全体での滞在時間を延長する観光の意識醸成			●	●
・既存サイト利用や機能強化によるネット手配の可能性検討		●		
・ウィアトラベル等の他の主体との連携方策の検討		●	●	
・各島の適正な受け入れキャパシティの把握		●		
・質的な向上を視野に入れた関係者の意識醸成			●	●
・世界自然遺産登録の進捗状況とあわせたWi-Fiの整備			●	●
・シーン別の課題整理、解決策の実施とハード、ソフトの改善プロセス検討			●	●
・既存イベントを確認しリピーター化につながる方策を検討		●	●	

(5) 奄美群島のアイランドホッピングの「売り」と将来的な展望

① 奄美群島のアイランドホッピングの「売り」

1) 島の魅力や島旅

- ・ 短期間で複数の島々を観光できる。
- ・ 奄美大島から2時間程度の移動を旅の一つと捉え、セールスポイントに。
- ・ 奄美群島は島によってカラーが異なる。それをうまく紡いで継続して発信していくことが大事。
- ・ 島の魅力を伝えられるアイデアを考えていけたらと思う。
- ・ 移動手段としても、声を届けるという意味でもアイランドホッピング自体が架け橋になるようなイメージで活動することが必要。
- ・ 鹿児島～沖縄間のように生活航路が長距離区間で上り下り日に一便ずつあるというのは全国でも珍しい。こういう利点を頭に入れながら進めた方がいい。
- ・ 自然遺産に値する環境、島ごとの文化・歴史や風景は、島巡りをする人にとってとても魅力的に感じる。
- ・ 島外者にとって、生活路線として使用しているプロペラ機に乗るだけでも楽しいし、港でコンテナの出し入れをみているだけでも楽しい。都会の暮らしでは見ることのできない、島の暮らしを見たり感じられたりすることも大きな売りになる。
- ・ 各島で独自の文化、魅力があるので、小さい空港、港などの非日常を感じられる所が売り。
- ・ 島の多様性が売り。個々の島でアイキャッチとなるアイコンのようなものを設定し、特徴づけることも1つの売り方。

2) 世界自然遺産

- ・ 世界自然遺産登録は、日本だけでなく世界にアピールできるポイントなので活用していきたい。

3) 船舶と船によるアクティビティ

- ・ 船の中でこういったサービスが提供できるのか（鹿児島島の錦江湾を出て、2時間くらいの間にサンセットをみながら夕食を美味しく頂くなど）。
- ・ 魅力的なクルージングメニューができないかなと思っている。ホエールウォッチングなどの可能性も視野に入れることができると良いと思う。
- ・ 日本全国で船旅が見直されてきている。十島村の7島めぐりマラソンなど船を使ったイベントも行われており、船旅ブームが起きてくるのではないかと思う。

4) その他

- ・ リピーターが生まれる十分な観光資源はあると思うが、地元の方々の力添えがないとできない。
- ・ 目的地に見合った新しい企画が生まれれば、旅行者も増える可能性がある。
- ・ 各島々の特徴、売りが島同士でかぶると、魅力を打ち消しあってしまうので、ある程度外部の意見も参考にすべき。

② 奄美群島のアイランドホッピングの将来的な展望

1) 地域の魅力を伝える

- ・ 奄美大島を中心とした一番近い島の魅力が旅行者に伝われば良い。
- ・ ここ1～2年、与論島への観光客の入り爆発的に増えている。情報発信のテクニックがある。与論町が長いことやってきた種を蒔くようなやりかたを他の島も見倣って、良い意味での観光情報の平準化ができたらいい。

- ・奄美は海だけでなく山もあるし、365日どんな季節でも楽しんでいただける素材がある。**国内だけでなく国外のお客様にも魅力的に見える**と思うので可能性が多くある。
- ・アイランドホッピング事業では島の一押し、みたいなものをそれぞれの島で探してもらうことが大切。文化的グラデーションとか人の気質の違いだとかに気がついてもらえるのではないかな。
- ・同じコンセプトで情報を共有しながら発信する。

2) 旅行商品や旅の提案

- ・JALが船便を使ったアイランドホッピング商品を打ち出していることに驚き、感動した。**パック商品になっていると本当に買いやすい**と思う。
- ・現時点で行っている商品の活性化も必要。
- ・クルーズ客船では入れない港もあるが、**南西諸島をめぐる旅といった旅の提案**もできたらおもしろい。
- ・世界遺産で文化遺産と自然遺産（九州山口の産業革命遺産、屋久島）があり、**奄美・琉球が登録されると世界遺産巡りのクルーズ等、多様な形でのホッピングの可能性**が出てくる。
- ・世界自然遺産に絡めて、**学術的な、学びというものを旅のテーマ**にしても良い。国内外へ学びをテーマにした旅を提案できる。
- ・アイランドホッピング事業の検討を重ねて発展していければ、その中で**奄美空港をハブ空港として活用**する事例も出てくる。
- ・**沖縄～屋久島、トカラも含まれる**と思う。
- ・**鹿児島、沖縄からの、アイランドホッピング**も考えられるので、必ずしも奄美大島が軸というわけでもない。時間を考慮して、他の空港も可能性があるのではないかな。
- ・将来の展望として、JR九州はD&S（デザイン&ストーリー）という列車を走らせているが一貫性を持たせていないため、七つ星やクルーズトレインもルートを変えて運行している。**お客様は九州内でも島に魅力を感じている**。JR九州も甕島にJR九州専属デザイナーの水戸岡さんがデザインした船を走らせたり、天草にもA列車に接続してシークルーズ（天草宝島ラインシークルーズ）を出したりしている。今後も何かの力になればと思っている。

3) 継続的な観光振興

- ・**世界自然遺産に登録されると、一気に人が増えるが数年後ブームは去る**ので、これまでの登録地では自然が荒らされてしまったという話も聞く。奄美もそういったポイントに気を使っていけば良い。
- ・世界自然遺産登録による観光人口の増加が一過性のものにならないように、どのような準備・連携が必要なのか皆で考えたい。
- ・指宿、霧島に来たことがある人を奄美群島に誘客し、島の多様性を活かし、色々な島に何回も来てもらう。

6. 調査を終えて

6-1 奄美群島のアイランドホッピングの課題と今後へ向けて

本事業で実施した各種の調査や奄美群島のアイランドホッピング検討会から得られた成果とともに、奄美群島のアイランドホッピングを推進するための要点について、示すものとする。

(1) 奄美群島のアイランドホッピング実証事業より

実証事業では、奄美大島と喜界島、奄美大島と徳之島について、2泊3日の船舶を利用する旅程を企画・検討し、各島が「あまみシマ博覧会」等で実施している着地型体験プログラムを組み合わせたモニターツアーを催行した。

また、船舶と航空機で奄美群島で複数の島を訪れる旅行商品を造成・販売している旅行代理店の関係者へのヒアリング調査結果を踏まえ、今後、求められる取り組みについて把握を行った。

奄美群島のアイランドホッピング実証事業で得られた成果は以下のとおりである。

1. 奄美大島+喜界島、奄美大島+徳之島の船舶と航空機を組み合わせた旅程モデルおよび欠航や抜港の少ない時期等をまとめた資料作成と情報発信
2. 今後、各島のキラーコンテンツとなり得る体験や観光魅力の紹介と受け入れ可能な条件、値付け等の販売促進用資料作成と情報発信
3. 荒天時の代替案や飲食提供場所の把握と情報発信

(2) 航空機利用者のニーズ把握アンケート調査より

空港利用者を対象としたアンケート調査では、消費額や旅行経験等とあわせて、奄美大島からの時間と渡航費用の比較による「船舶を使って行きたい島」について確認を行った。

その結果として、徳之島、喜界島の隣接する2島への来訪意向は、沖永良部島、与論島等よりも高く、回答者は、移動時間と費用を勘案した結果、2時間程度の移動であれば、船舶利用の観光に対する可能性がうかがえる結果となった。

この結果より、奄美群島のアイランドホッピングは、奄美大島を起点するルートと沖縄を起点とするルートの2種類に大別する必要があることが推察される。

このようなニーズ把握は、毎年、一定時期に定期的に実施することが重要であり、国や奄美群島内の各自治体と連携し、観光統計データ収集に組み込む等の継続的な実施が必要である。

(3) 奄美群島アイランドホッピング検討会より

検討会においては、「奄美群島のアイランドホッピング」の現状把握と課題の抽出および各種調査結果を踏まえた意見交換を行った。

なお、議論の前段として、「奄美群島のアイランドホッピング」の定義について明確化すべきという委員意見を受け、検討を行った。

検討会で得られた成果の主要なものを以下に示す。

1. 奄美群島のアイランドホッピングの定義づけを以下のとおり確定
「奄美群島の複数の有人島をゆったりと周遊しながら移動すること自体も楽しむ旅」
2. 将来的な協議会設置を視野に入れた交通事業者を中心とする観光振興に関する定期的な議論や情報交換の場の継続的な解説と体制整備
3. 抽出された課題の分野別の分科会の設置と課題解決へ向けた議論や具体的方策の検討

（４）奄美群島のアイランドホッピング実現のための要点と方策

奄美群島のアイランドホッピングの定義、「奄美群島の複数の有人島をゆったりと周遊しながら移動すること自体も楽しむ旅」を反映し、奄美群島のアイランドホッピングを実現するためには、今後、実施される取り組みの原点となるダイレクションやコンセプトが必要になる。

奄美群島のアイランドホッピングの推進は、検討会で提示された課題の解決を個別に進める一方、船会社3社を中心とする交通事業者と観光関係者が一丸となり、前向きな将来の展望を共有することが望まれる。

今後、奄美群島で船舶や航空機、鉄道を組み合わせたアイランドホッピングを推進するにあたり、関東、関西の大都市圏はもとより、重要な集客圏である九州地域から、鉄道と船舶による奄美群島へのアクセスも「移動すること自体も楽しむ」観光として、魅力を高める必要がある。

J R九州のD&S(デザイン&ストーリー)トレインは、「特急A列車で行こう×天草宝島ライン」という鉄道と船舶を組み合わせ、天草の島を周遊する旅行商品である。天草の島を航行する3艘の船舶のデザインも鉄道の車両と同様、J R九州の専属デザイナーの水戸岡鋭治氏が手掛けている。

J R三角線の観光特急列車[A列車で行こう]は、ジャズのスタンダード・ナンバーにちなむ名称とともに、「A列車のAは天草-AMAKUSA-と大人-ADULT-を意味しており、高級感溢れる大人の列車(株式会社シークルーズサイトより抜粋)」というコンセプトのもと、接続する3艘の船舶も「[A列車で行こう]に合わせ、ドーンデザイン研究所・水戸岡鋭治氏にリニューアルのデザインをして頂きました。(株式会社シークルーズサイトより抜粋)」とあり、鉄道と船舶は単なる乗り物ではなく、明確なコンセプトにもとづく観光魅力となっている。

「A列車で行こう」は、今回、定義づけた「移動すること自体も楽しむ」観光の好例といえる。

奄美群島のアイランドホッピングが目指す「移動すること自体も楽しむ」観光へ向けて、課題の解決や関係者間の合意形成を進めるために、以下のようなプロセスが必要になる。

①奄美群島のアイランドホッピング全体のダイレクションの設定

奄美群島のアイランドホッピングとして船舶、航空機、鉄道等を乗り継ぐ観光の快適性を高め、利用者が楽しむためには、鹿児島島～沖縄間を結ぶ国内随一の長大な生活航路全体の方向性を定めることが最重要課題といえる。検討会の委員意見では、客船ターミナルをはじめ、船舶や施設に対す

る整備や改修の必要性が示唆されているが、実施主体が異なるため、全体に通底するコンセプトやデザインのもと整備が進む可能性は極めて低く、個々別々のデザインが集積した魅力度の低い施設が出来上がってしまうことが強く懸念される。

そのような状況を回避するためには、奄美群島のアイランドホッピング全体を通じ、奄美群島の魅力を最大限に引き出す最適な方向性について、時間をかけて考え、定める必要がある。その際、最も重要になるのがコンセプトを考える専門家の選定であり、乗り物を軸とした旅の魅力を高め、地域が目指すべき観光の本質を理解し、優れた実力や実績を有する専門家によるダイレクションは、奄美群島を航行する船舶の魅力や話題性のみならず、奄美群島という地域の価値を高めることに繋がる。奄美群島のアイランドホッピングを目指す地域全体のモチベーションの向上にも大きく影響するため、専門家の選定は慎重に行う必要がある。

②奄美群島のアイランドホッピングの船舶のコンセプトづくりと具体的なアクション

フェリーさんふらわあは、明確なコンセプトを持つ船舶として注視すべき事例である。キャッチコピーの「船に泊まろう。」や2018年竣工予定の新造船のコンセプトである「カジュアルクルーズ」は、船旅の面白さやワクワク感が伝わり、船を介した観光の魅力向上に効果的である。

現在、奄美群島を航行する3社の船会社の6艘の船舶は、いずれも新造船に変わるタイミングがかなり先という状況にあるが、快適な奄美群島のアイランドホッピングを実現するためには、6艘の船舶の魅力を高めることが喫緊の課題といえる。現行の6艘の船舶は、生活航路の船と位置づけられており、住民と荷物を運ぶ機能に限定されている状況にある。

今後、「移動すること自体も楽しむ」観光を目指すにあたり、①の奄美群島のアイランドホッピング全体のダイレクションにもとづき、個々の船舶のコンセプトを打ち出していく必要がある。これまで、誰もが生活航路としてしか認識していなかった6艘の船舶に、「観光」という新たな視点と役割を加え、魅力を高めるためには、意識転換を図ることが不可欠となる。

また、船舶のコンセプトに沿った改修を実施する場合、船舶全体の大規模改修ではなく、内装の改善や船内の一部をコンセプトにもとづき整備することが具体的な課題解決の出発点になる。

例えば、「奄美群島の観光情報の発信」に特化し、情報掲載の専用スペースやコーナーを設置することや、船旅の快適性を高めるベンチや小テーブルの設置等は、検討会で示された具体的な課題の解決策となる。

(5) 奄美群島のアイランドホッピング実現へ向けた体制の構築

課題解決については、各課題に沿った分科会の設置や女性目線を反映させた快適性の向上を目的とする体制づくりを進めていくことが必要である。

具体的には、交通事業者を中心とする課題解決への議論や情報交換の場の設定について、検討会でも多くの賛同が得られたことから、分科会として整備していく方向が望まれる。

参考資料

1. 旅行商品調査結果

航路、空路、鉄道を組み合わせた旅行商品に見る奄美群島

旅行会社と商品名	内容	泊数と出発月	料金
<p>【クラブツーリズム】 世界自然遺産候補地 奄美群島4島めぐり 5日間 (関東地方発)</p>	<p>【利用交通機関】 ・1日目(与論島): 羽田→鹿児島→与論(航空機)～島内バス移動 (航空機移動時間・・・08:00～12:55/4:55) ・2日目(沖永良部島): <u>与論港→和泊港(船舶)</u>～島内バス移動 (船舶移動時間・・・12:10～14:10/2:00) ・3日目(徳之島): <u>和泊港→亀徳港(船舶)</u>～島内バス移動 (船舶移動時間・・・14:40～16:30/1:50) ・4日目(奄美大島): <u>平土野港→古仁屋港(船舶)</u>～島内バス移動 (船舶移動時間・・・12:50～15:10/2:20) ・5日目(奄美大島): 奄美→羽田(航空機) (航空機移動時間・・・15:25～17:20/1:55)</p> <p>【滞在・宿泊】 ・1泊目: 与論島【プリシアリゾート】 ・2泊目: 沖永良部島【おきえらぶフローラル】 ・3泊目: 徳之島【ホテルグランドオーシャンリゾート】 ・4泊目: 奄美大島【ホテルウエストコート奄美】</p> <p>【最少催行人数】 10名(添乗員付き)</p>	<p>4泊5日 (9～3月)</p>	<p>150,000円 ～ 160,000円</p>
<p>【クラブツーリズム】 個人では行きにくい 「喜界島」奄美群島5島めぐり 4日間 (関東地方発)</p>	<p>【利用交通機関】 ・1日目(奄美大島): 羽田→奄美(航空機)～島内バス移動 (航空機移動時間・・・12:30～14:45/2:15) ・2日目(奄美大島、加計呂麻島、与路島、請島): <u>古仁屋港→加計呂麻島→与路島→請島(チャーター船舶)</u> ～島内バス移動 (船舶移動時間・・・0:25+0:50+0:45) ・3日目(喜界島): 奄美→喜界(航空機)～島内バス移動 (航空機移動時間・・・0:20) ・4日目(奄美大島): 喜界→鹿児島→羽田(航空機) (航空機移動時間・・・3:10)</p> <p>【滞在・宿泊】 ・1泊目: 奄美大島【ホテルウエストコート奄美】 ・2泊目: 奄美大島【ホテルウエストコート奄美】 ・3泊目: 喜界島【喜界島第一ホテル】</p> <p>【最少催行人数】 8名(添乗員付き)</p>	<p>3泊4日 (9～3月)</p>	<p>159,000円 ～ 179,000円</p>
<p>【クラブツーリズム】 『往復奄美大島直行便 利用 いも～れ奄美大島 3日間』 (関東地方発)</p>	<p>1島滞在(アイランドホッピングなし) 【利用交通機関】 ・1日目(奄美大島): 羽田→奄美(航空機)～島内バス移動 ・2日目(奄美大島): 島内バス移動 ・3日目(奄美大島): 奄美→羽田(航空機)</p> <p>【滞在・宿泊】 ・1泊～2泊: 奄美大島【ホテルウエストコート奄美、ホテルニュー奄美、奄美サンプラザホテルのいずれか】</p> <p>【最少催行人数】 25名(添乗員付き)</p>	<p>2泊3日 (9～2月)</p>	<p>49,900円 ～ 124,900円</p>
<p>【クラブツーリズム】 『往復奄美大島直行便 利用! 緑と海洋きらめ く島 奄美大島2日間』 (関東地方発)</p>	<p>1島滞在(アイランドホッピングなし) 【利用交通機関】 ・1日目(奄美大島): 羽田→奄美(航空機)～島内バス移動 ・2日目(奄美大島): 奄美→羽田(航空機)～島内バス移動</p> <p>【滞在・宿泊】 ・1泊: 奄美大島【ウエストコート奄美または同等クラス】</p> <p>【最少催行人数】 25名(添乗員付き)</p>	<p>1泊2日 (10～3月)</p>	<p>34,900円 ～ 109,900円</p>

<p>【クラブツーリズム】</p> <p>『往復奄美大島直行便 利用！緑と海洋きらめ く島 奄美大島2日間 山羊島ホテル宿泊プラン』 (関東地方発)</p>	<p>1島滞在(アイランドホッピングなし)</p> <p>【利用交通機関】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日目(奄美大島): 羽田→奄美(航空機)～島内バス移動 ・2日目(奄美大島): 奄美→羽田(航空機)～島内バス移動 <p>【滞在・宿泊】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1泊: 奄美大島【山羊島ホテル】 <p>【最少催行人数】 25名(添乗員付き)</p>	<p>1泊2日 (10～3月)</p>	<p>46,900円 ～ 71,900円</p>
<p>【クラブツーリズム】</p> <p>『与論島フリープラン 3 日間』 (関東地方発)</p>	<p>1島滞在(アイランドホッピングなし)</p> <p>【利用交通機関】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日目(与論島): 羽田→鹿児島→与論(航空機) ・2日目(与論島): 島内自由行動 ・3日目(与論島): 与論→鹿児島→羽田(航空機) <p>【滞在・宿泊】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1泊～2泊: 与論島【プリシアリゾート】 <p>【最少催行人数】 1名(添乗員なし)</p>	<p>2泊3日 (9～10月)</p>	<p>49,900円 ～ 99,900円</p>
<p>【JTB・旅物語】</p> <p>奄美大島・加計呂麻 (かけろま)島ベストハ イライト 3日間 (首都圏発)</p>	<p>【利用交通機関】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日目(奄美大島): 羽田→奄美(航空機)～島内バス移動 ・2日目(奄美大島): <u>古仁屋港→渡連港(チャーター水中観光船)</u> <u>生間港→古仁屋港(船舶)</u>～島内バス移動 ・3日目(奄美大島): 奄美→羽田(航空機)～島内バス移動 <p>【滞在・宿泊】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1泊目: 奄美大島【奄美リゾートばしゃ山村】 ・2泊目: 奄美大島【プチリゾートネイティブシー奄美】 <p>【最少催行人数】 15名(添乗員なし)</p>	<p>2泊3日 (11～12月)</p>	<p>85,800円 ～ 108,800円</p>
<p>【JTB・エース】</p> <p>『手つかずの大自然が 残る 南国の楽園奄美 大島 3日間』 (首都圏発)</p>	<p>【利用交通機関】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日目(奄美大島): 羽田→鹿児島→奄美(航空機) ～島内バス移動 ・2日目(奄美大島、加計呂麻島): <u>古仁屋港～生間港(船舶海上タクシー)</u> <u>瀬相港～古仁屋港(船舶海上タクシー)</u>～島内バス移動 ・3日目(奄美大島): 奄美→鹿児島→羽田(航空機) ～島内バス移動 <p>【滞在・宿泊】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～2泊: 奄美大島【奄美山羊島ホテル】 <p>【最少催行人数】 15名(添乗員付き)</p>	<p>2泊3日 (10～3月)</p>	<p>136,800円 ～ 153,800円</p>
<p>【JTB・エース】</p> <p>『奄美大島ステイプラン ／3日間』、 『奄美大島ステイプラン ／4日間』 (首都圏発)</p>	<p>1島滞在(アイランドホッピングなしフリープラン)</p> <p>【利用交通機関】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日目(奄美大島): 羽田→鹿児島→奄美(航空機) ・2日目(奄美大島): 島内自由行動 ・3日目(奄美大島): 島内自由行動 ・4日目(奄美大島): 奄美→鹿児島→羽田(航空機) ●日帰りレンタカー付(トヨタSクラス・喫煙) <p>【滞在・宿泊】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～2泊: 奄美大島【奄美サンプラザホテル、ホテルウエストコート奄美、 プチリゾートネイティブシー奄美、ホテルニュー奄美、奄美リゾートばしゃ山村】 <p>【最少催行人数】 2名(添乗員なし)</p>	<p>2泊3日 (10～3月)</p>	<p>・2日間 49,500円～ 113,500円 ・4日間 54,800円～ 119,800円</p>

<p>【JALPACK】</p> <p>JMBプレミアムツアー セレクション スローな時間と海の絶景 奄美大島と与論島 を行く4日間 (東京・伊丹発)</p>	<p>【利用交通機関】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日目(奄美大島): 羽田→奄美(航空機) ～島内観光タクシー移動 ・2日目(奄美大島、加計呂麻島): <u>古仁屋港→加計呂麻島(船舶)</u> ～島内観光タクシー移動 ・3日目(与論島): 奄美→与論(航空機) ～島内観光タクシー移動 ・4日目(与論島): 与論→鹿児島→羽田(航空機) <p>【滞在・宿泊】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1泊目: 奄美大島【奄美山羊島ホテル(ホテルウエストコート奄美)】 ・2泊目: 奄美大島【THE SCENE(ライブストイン奄美)】 ・3泊目: 与論島【プリシアリゾートヨロン】 <p>【最少催行人数】 2名(添乗員なし)</p>	<p>3泊4日 (7～11月)</p>	<p>118,000円 ～ 163,000円</p>
<p>【JALPACK】</p> <p><奄美群島の島々を 巡る>6日間 (東京・伊丹発)</p>	<p>【利用交通機関】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日目(与論島): 羽田→鹿児島→与論(航空機) (航空機移動時間・・・08:00～12:55/4:55) ・2日目(沖永良部島): <u>与論港→和泊港(船舶)</u> (船舶移動時間・・・12:10～14:10/2:00) ・3日目(徳之島): <u>和泊港→亀徳港(船舶)</u> (船舶移動時間・・・14:40～16:30/1:50) ・4日目(奄美大島): 徳之島→奄美(航空機) (航空機移動時間・・・0:30) ・5日目(喜界島): 奄美→喜界(航空機) (航空機移動時間・・・0:20) ・6日目(喜界島): 喜界→鹿児島→羽田(航空機) (航空機移動時間・・・4:10) <p>●沖永良部島・徳之島・奄美大島はオプションレンタカーあり</p> <p>【滞在・宿泊】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1泊目: 与論島【プリシアリゾートヨロン】 ・2泊目: 沖永良部島【おきえらぶフローラルホテル】 ・3泊目: 徳之島【ホテルニューにしだ】 ・4泊目: 奄美大島【ホテルウエストコート奄美】 ・5泊目: 喜界島【喜界第一ホテル】 <p>【最少催行人数】 1名(添乗員なし)</p>	<p>5泊6日 (4～10月)</p>	<p>105,300円 ～ 149,000円</p>
<p>【JALPACK】</p> <p>日本エアコミューターで 行くヨロン島 2泊～4泊 (福岡・鹿児島発)</p>	<p>【利用交通機関】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日目(与論島): 鹿児島→与論(航空機) ・2日目(与論島): ～島内自由行動 ・3日目(与論島): ～島内自由行動 ・4日目(与論島): 与論→鹿児島(航空機) <p>【滞在・宿泊】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与論島【プリシアリゾートヨロン】 <p>【最少催行人数】 1名(添乗員なし)</p>	<p>2泊3日 ～ 4泊5日 (4～9月)</p>	<p>・2日間: 32,300円～ 57,800円 ・3日間: 39,800円～ 81,800円 ・4日間: 50,800円～ 90,800円</p>
<p>【JALPACK】</p> <p>小型プロペラ機で奄美 群島のアイランドホッピ ング2日間 16フライト (東京・伊丹発)</p>	<p>【利用交通機関】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日目(鹿児島): 羽田→伊丹→奄美→沖永良部→ 与論→奄美→喜界→鹿児島(航空機) (曜日によって与論島と沖永良部島が逆になる) ・2日目: 鹿児島→喜界→奄美→奄美→与論→ 沖永良部→奄美→鹿児島→羽田(航空機) (曜日によって与論島と沖永良部島が逆になる) <p>【滞在・宿泊】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1泊目: 鹿児島 <p>【最少催行人数】 1名(添乗員なし)</p>	<p>1泊2日 2泊3日のツ アーもあり (4～10月)</p>	<p>・2日間 136,800円 ～ 150,800円 ・3日間 142,800円 ～ 160,800円</p>

<p>【阪急交通社・トラピックス】 はじめての南国の楽園 奄美大島 3日間 (東京発)</p>	<p>【利用交通機関】 ・1日目(奄美大島): 羽田→奄美(航空機)～島内バス移動 (航空機移動時間・・・2:15) ・2日目(奄美大島、大島海峡): <u>古仁屋港から水中観光船(船舶)</u> (乗船時間・・・0:40) ～島内バス移動 ・3日目(奄美大島): 奄美→羽田(航空機)～島内バス移動 (航空機移動時間・・・1:55)</p> <p>【滞在・宿泊】 ・1～2泊: 奄美大島【ビッグマリン奄美】</p> <p>【最少催行人数】 25名(添乗員付き)</p>	<p>2泊3日 (9～12月)</p>	<p>59,900円 ～ 76,900円</p>
<p>【阪急交通社・クリスタルハート】 喜界島と奄美大島と与論島 4日間 (東京発)</p>	<p>【利用交通機関】 ・1日目(喜界島): 羽田→奄美→喜界(航空機)～島内バス移動 (航空機移動時間・・・4:05) ・2日目(奄美大島): 喜界→奄美(航空機)～島内バス移動 (航空機移動時間・・・0:20) ・3日目(与論島): 奄美→与論(航空機)～島内バス移動 (航空機移動時間・・・0:20) ・4日目: 与論→那覇→羽田(航空機) (航空機移動時間・・・4:05)</p> <p>【滞在・宿泊】 ・1泊目: 喜界島【喜界第一ホテル】 ・2泊目: 奄美大島【ホテルカレッタ】 ・3泊目: 与論島【プリシアリゾートヨロン】</p> <p>【最少催行人数】 10名(添乗員付き)</p>	<p>3泊4日 (11～12月)</p>	<p>159,000円 ～ 179,000円</p>
<p>【近畿日本ツーリスト】 奄美大島ステイプラン 〔往復 直行便〕4日間 (東京発)</p>	<p>【利用交通機関】 ・1日目(奄美大島): 羽田→奄美(航空機) ・2日目(奄美大島): ～島内自由行動 ・3日目(奄美大島): ～島内自由行動 ・4日目(奄美大島): 奄美→羽田(航空機)</p> <p>【滞在・宿泊】 ・奄美大島【ホテルビッグマリン奄美、ホテルウエストコート奄美、奄美大島ホテルリゾートコーラルパームス、奄美リゾートホテルティダムーンの中から選択】</p> <p>【最少催行人数】 1名(添乗員なし)</p>	<p>3泊4日 2泊3日のツアーもあり (10～3月)</p>	<p>・4日間 49,800円 ～ 126,800円 ・3日間 42,800円 ～ 119,800円</p>
<p>【近畿日本ツーリスト】 ヨロン島フリープラン3日間 (東京発)</p>	<p>【利用交通機関】 ・1日目(与論島): 羽田→鹿児島(那覇)→与論(航空機) ・2日目(与論島): ～島内自由行動 ・3日目(与論島): ～島内自由行動 ・4日目(与論島): 与論→鹿児島(那覇)→羽田(航空機)</p> <p>【滞在・宿泊】 ・与論島【プリシアリゾートヨロン】</p> <p>【最少催行人数】 1名(添乗員なし)</p>	<p>3泊4日 (10～3月)</p>	<p>43,800円 ～ 144,800円</p>

<p>【日本旅行】 【5日間】奄美リゾート スペシャル (東京発)</p>	<p>【利用交通機関】 ・1日目(奄美大島): 羽田→奄美(航空機) ・2日目(奄美大島): ~島内自由行動 ・3日目(奄美大島): ~島内自由行動 ・4日目(奄美大島): ~島内自由行動 ・5日目(奄美大島): 奄美→羽田(航空機)</p> <p>【滞在・宿泊】 ・奄美大島内ホテル(施設名未記載)</p> <p>【最少催行人数】 2名(添乗員なし)</p>	<p>4泊5日 3泊4日、 2泊3日のツ アーもあり (7~10月)</p>	<p>・5日間 57,800円 ~ 100,800円 ・4日間 52,800円 ~ 91,800円 ・3日間 47,800円 ~ 118,800円</p>
<p>【日本旅行】 【5日間】与論島プリシ アリゾートスペシャル (東京発)</p>	<p>【利用交通機関】 ・1日目(与論島): 羽田→鹿児島→与論(航空機) ・2日目(与論島): ~島内自由行動 ・3日目(与論島): ~島内自由行動 ・4日目(与論島): ~島内自由行動 ・5日目(与論島): 与論→鹿児島→羽田(航空機)</p> <p>【滞在・宿泊】 ・与論島【プリシアリゾートヨロン】</p> <p>【最少催行人数】 2名(添乗員なし)</p>	<p>4泊5日 3泊4日、 2泊3日のツ アーもあり (7~10月)</p>	<p>・5日間 69,800円 ~ 103,800円 ・4日間 62,800円 ~ 109,800円 ・3日間 56,800円 ~ 118,800円</p>
<p>【JR九州旅行】 フェリーで行く奄美大 島の旅 (九州内の設定駅発)</p>	<p>【利用交通機関】 ・1日目(船中泊): 九州のJR駅→鹿児島中央駅 →<u>鹿児島新港(船舶)</u> (船舶移動時間・・・11:00) ・2日目(奄美大島): →<u>名瀬港</u>~島内自由行動 ・3日目(船中泊): <u>名瀬港</u>→(船舶) (船舶移動時間・・・11:00) ・4日目: →<u>鹿児島新港</u>→鹿児島中央駅→九州のJR駅 ●オプションレンタカーあり</p> <p>【滞在・宿泊】 ・1泊目: フェリー船中泊 ・2泊目: 奄美大島【ビッグマリン奄美or奄美山羊島ホテル】 ・3泊目: フェリー船中泊</p> <p>【最少催行人数】 1名(添乗員なし)</p>	<p>1泊4日 (船中泊2日) (6~9月)</p>	<p>18,600円 ~ 32,400円</p>

航路、空路、鉄道を組み合わせた旅行商品に見る奄美群島 一覧表

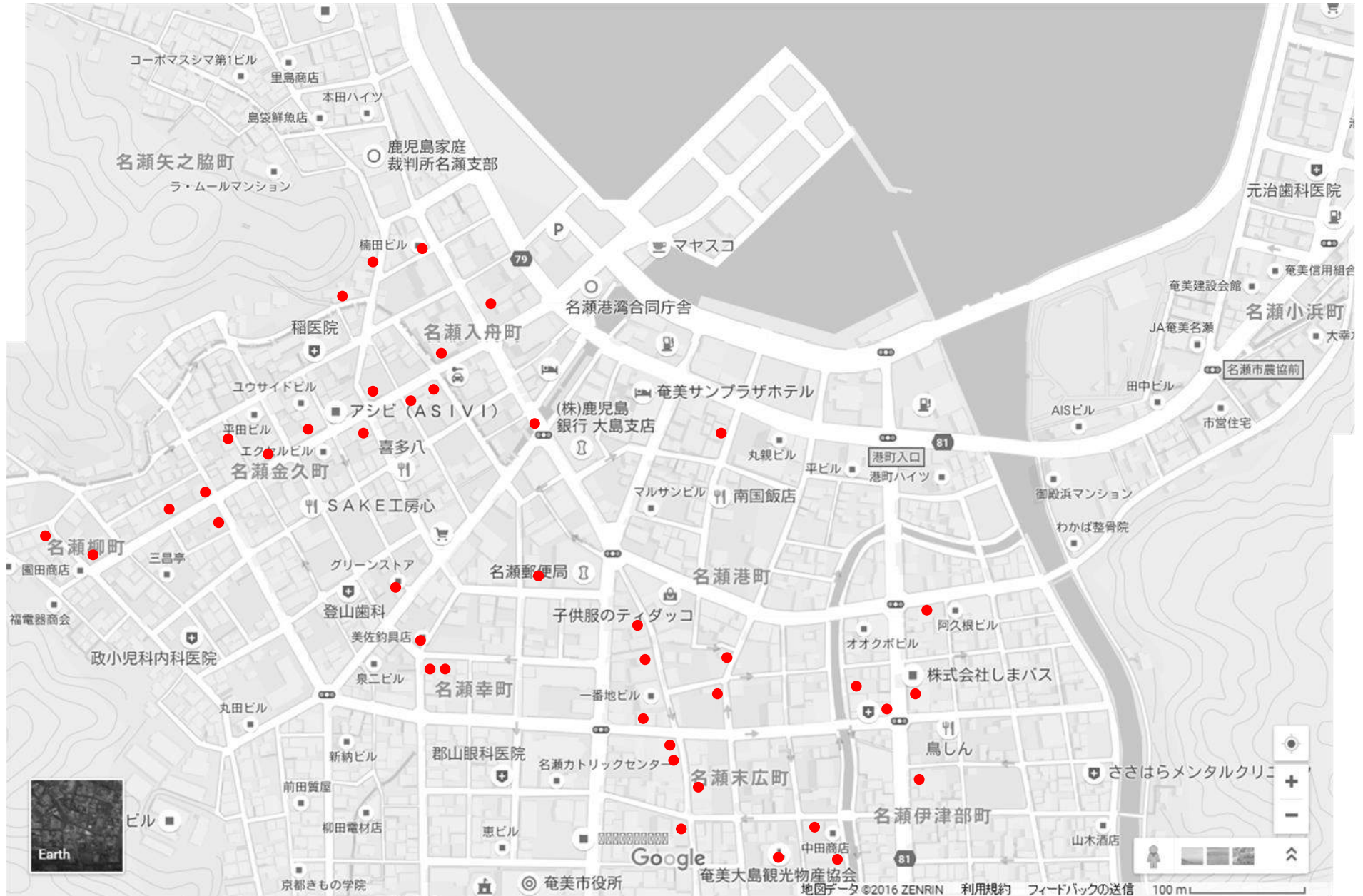
		クラブツーリズム株式会社	株式会社ジェイティービー(エース、旅物語)	株式会社ジャルパック	株式会社阪急交通社(トラピックス、クリスタル)	近畿日本ツーリスト株式会社	株式会社日本旅行	
1	奄美大島	5	2	2	2	1	1	13
2	加計呂麻島	1	2					3
3	与路島	1						1
4	請島	1						1
5	喜界島	1		1	1			3
6	徳之島	1		1				2
7	沖永良部島	1		1				2
8	与論島	2		3	1	1	1	8
		13	4	8	4	2	2	
	備考	<ul style="list-style-type: none"> ●「～島めぐり」で表記 ●フリープランは与論島1件 ●「世界自然遺産候補地奄美群島」がキーワードに 	<ul style="list-style-type: none"> ●フリープランは、首都圏、関西等の出発で、奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島等多数販売 ●与論島のフリープランは、往復那覇空港経由 ●いずれの旅行商品も移動は航空機中心 ●「世界自然遺産登録を目指している奄美大島」がキーワードに 	<ul style="list-style-type: none"> ●奄美大島のフリープランは多数、 ●フリープランはオプションレンタカー付き ●福岡、鹿児島発の与論島フリープランあり ●2日間で16フライトの商品に「アイランドホッピング」の表記 ●2日間で16フライトの内訳は、[奄美5]、[喜界3]、[沖永良部2]、[与論2]、[鹿児島2]、[伊丹1] 	<ul style="list-style-type: none"> ●JALとパニアエア利用の奄美大島フリープラン多数 ●徳之島、沖永良部島の単独フリープラン多数 			

	JR九州旅行	島旅ツアーリスト (沖縄・離島旅行専門)	リボーン (エコツーリズム専門)	ユーラシア旅行社	奄美ツアーリストサービ ス (里見海運産業株式会 社)	奄美航空ツアーリスト	
1	奄美大島	1			1	2	4
2	加計呂麻島						0
3	与路島						0
4	請島						0
5	喜界島				1		1
6	徳之島	1			1	1	3
7	沖永良部島	1			1		2
8	与論島	8			1	2	11
		1					
備考	<ul style="list-style-type: none"> ●鉄道とフェリー利用の奄美大島フリープラン ●設定されている九州の出発駅は22駅 	<ul style="list-style-type: none"> ●奄美大島のパッケージツアーなし ●与論島の滞在日数が長めのツアーが多数 ●徳之島、沖永良部島のツアーがそれぞれ1つ ●複数の島を移動する商品なし 	<ul style="list-style-type: none"> ●奄美大島、奄美群島のパッケージツアーなし ●沖縄、屋久島、小笠原のツアーあり 	<ul style="list-style-type: none"> ●奄美大島、奄美群島および鹿児島県内の離島のパッケージツアーなし 	<ul style="list-style-type: none"> ●福岡、鹿児島から各島へ行くツアーの全てがフリープラン 	<ul style="list-style-type: none"> ●東京発で、奄美大島、徳之島、与論島のツアーあり ●複数の島を移動する商品なし 	

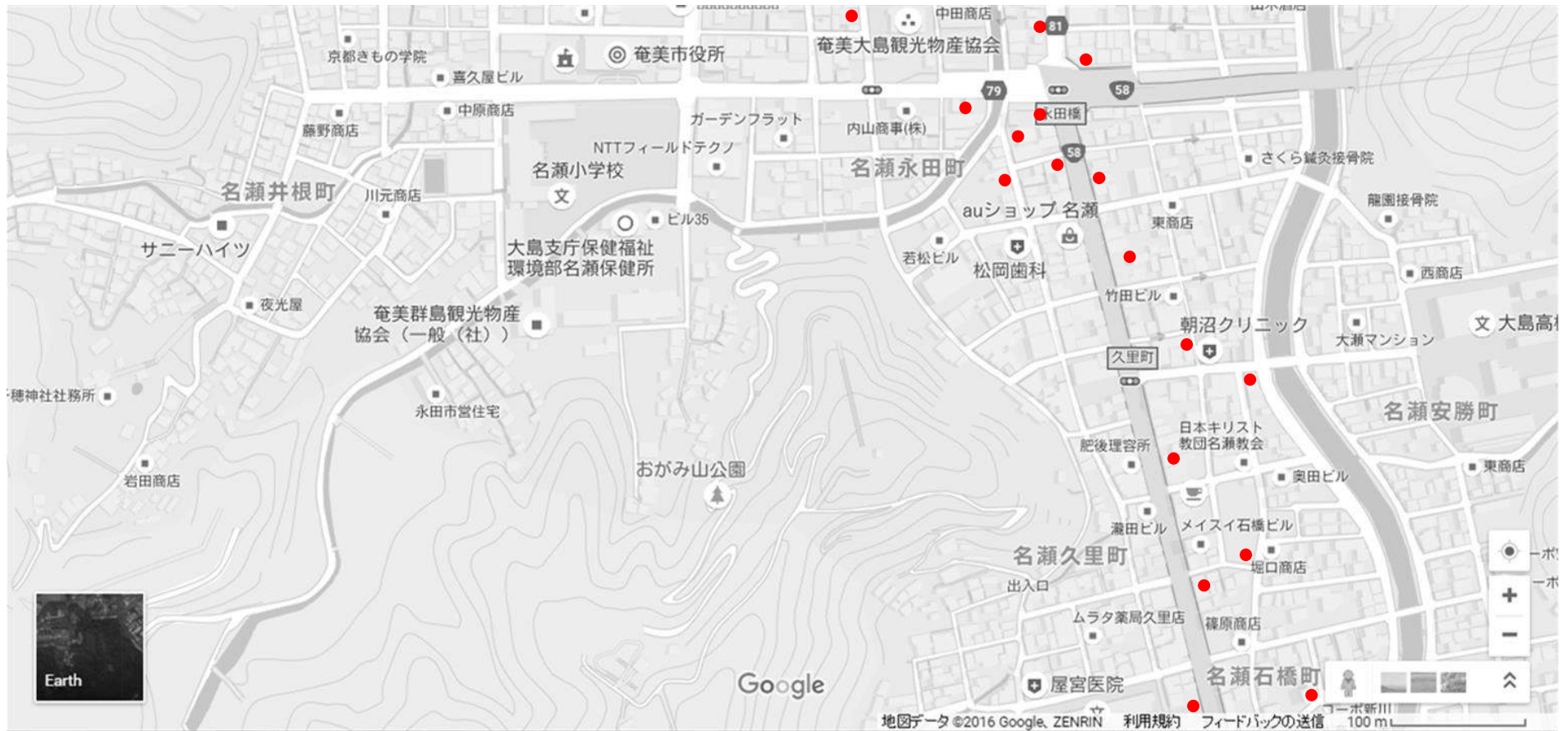
参考資料

2. モニターツアーまちあるき結果

奄美群島アイランドホッピング検討事業 奄美大島+喜界島モニターツアーまちあるき結果



奄美群島アイランドホッピング検討事業 奄美大島+喜界島モニターツアーまちあるき結果



■ 気になった場所の一例



参考資料

3. 検討会次第および委員名簿

平成28年度 奄美群島アイランドホッピング検討事業

第1回 奄美群島アイランドホッピング検討会

議 事 次 第

開催日時:平成28年9月14日(水)

15:00~17:00

開催場所:大島支庁4階 大会議室

1. 開 会
2. あいさつ
3. 資料確認、出席者紹介、事業概要の説明
4. 奄美群島のアイランドホッピングの現状について
5. 意見交換
 - ・奄美群島のアイランドホッピングの望ましいあり方と魅力向上について
6. 意見を踏まえた奄美群島のアイランドホッピングの課題について
7. その他、次回会議日程調整
8. 閉 会

【配布資料】

- ・次第、委員名簿、座席表
- ・資料1 奄美群島のアイランドホッピングの現状
- ・資料2 アイランドホッピング旅行商品
- ・資料3 奄美群島のアイランドホッピングの課題
- ・参 考 平成27年度奄美群島交流需要喚起対策特別事業効果検証
調査結果(抜粋)
- ・モニターツアーのご案内
- ・第2回、3回の日程調整票

平成28年度 奄美群島アイランドホッピング検討事業

第2回 奄美群島アイランドホッピング検討会

議 事 次 第

開催日時:平成28年11月15日(火)

15:30～17:30

開催場所:奄美会館 2階 会議室

1. 開 会
2. 資料確認、今回からの出席者紹介
3. 第1回の欠席委員からの意見
4. 第1回検討会で提示された課題について
5. モニターツアーのアンケート集計結果
6. モニターツアーで感じた課題と魅力
7. 意見交換
8. その他、事務連絡など
9. 閉 会

【配布資料】

- ・次第、委員名簿、座席表
- ・資料1 第1回検討会から抽出された課題と解決方策（案）
- ・資料1別紙 熊野古道自家用車運搬サービス
- ・資料2 10月モニターツアー旅程とアンケート集計結果
- ・参考資料 8月空港利用者アンケート調査速報
- ・モニターツアーのご案内

平成28年度 奄美群島アイランドホッピング検討事業

第3回 奄美群島アイランドホッピング検討会

議 事 次 第

開催日時:平成29年2月3日(金)

15:30~17:30

開催場所:大島支庁4階 大会議室

1. 開 会
2. 資料確認
3. 第2回で提示した課題と解決策への委員からの意見
4. 11月のモニターツアーのアンケート集計結果
5. 奄美群島のアイランドホッピングの課題と魅力（旅行会社の視点から）
6. 意見交換
7. その他、事務連絡など
9. 閉 会

【配布資料】

- ・次第、委員名簿、座席表
- ・資料1 第1、第2回検討会から抽出された課題と解決方策（案）
- ・資料2 11月モニターツアー旅程とアンケート集計結果
- ・参考資料 11月空港利用者アンケート調査速報

奄美群島アイランドホッピング検討会 委員名簿

※敬称略

委員	所属	備考
有村 卓朗	マルエーフェリー株式会社 鹿児島営業部 課長	
上塩入 誠	マリックスライン株式会社 営業本部旅客グループ 本部長補佐	
本坊 隆幸	奄美海運株式会社 取締役・総務部長	
栄 正行	日本航空鹿児島支店 奄美営業所 所長	
岩崎 勇登	株式会社しまバス 社長	
再田 美紀	有限会社西郷レンタカー 取締役	
白橋 大信	公益社団法人鹿児島県観光連盟 国内誘致部 専務理事	
松元 英雄	一般社団法人 奄美群島観光物産協会 統括リーダー	
山下 久美子	奄美大島観光協会 事務局 奄美大島北部島コーディネーター	
米盛 幸一	鹿児島県観光交流局 観光課 課長	
豊 勇樹	奄美群島広域事務組合 奄美振興課 観光・物産係長	
妹川 伸一	九州旅客鉄道株式会社 JR九州旅行鹿児島支店 支店長	
目島 憲弘	一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー 国内事業部 部長	

オブザーバー	所属	備考
樋口 博	九州運輸局鹿児島運輸支局 首席運輸企画専門官 運航担当	第1、2回 オブザーバー
若松 広幸	九州運輸局鹿児島運輸支局 首席運輸企画専門官 企画調整担当	第3回 オブザーバー

ゲストスピーカー	所属	備考
川良 真理	NPO法人 長崎コンプラドール 副理事長	第2回ゲストスピーカー
嶋田 京一	株式会社風カルチャークラブ 社長 (モニターツアー催行旅行会社)	第3回ゲストスピーカー

**平成28年度
奄美群島アイランドホッピング検討事業
報告書**

平成29年3月
鹿児島県大島支庁